

徳島 の剣道

第 3 号

徳島県剣道連盟

一、剣道の理念

剣道は

剣の理法の修練による

人間形成の道である

一、剣道修練の心構え

剣道を正しく真剣に学び

心身を錬磨して 旺盛なる気力を養い

剣道の特性を通じて 礼節をとうとび

信義を重んじ 誠を尽して 常に自己の修養に努め

以って 国家社会を愛して

広く人類の平和繁栄に寄与せんとするものである

以上

巻頭言

剣道のめざす方向と社会的役割について

徳島県剣道連盟会長 堀 江 幸 夫

剣の道では「懸中懸」をきびしく戒め「懸中待」の心構えを深く説いて教えている。省みて今日の日本の社会を眺めて凡ゆる分野で「懸中懸」の様相を呈していることが強く感ぜられる。めまぐるしい動きの激しい現代社会は喰うか喰われるか、苛烈なまでの競争社会、唯々倒され取り残されなためにはよく進する気持はわからぬでもない。また反面こうした気持が社会の進歩の呼び水になっているようだが、このためいろいろな不均衡やゆがみも現われて極度にバランスが崩れ憂慮すべき問題も生じてきている。即ち心の喪失時代の出現である。

私には社会の難しい理屈、仕組みや考え方は所詮手におえる代物ではないが今の社会の異常さは痛く胸に感ぜざるを得ない。こうした異常さは、心を忘れて物質文明を追いすぎた結果の産物で、この産物が社会の心の健康をおおいに害したのである。

それは唯々文明の進歩発展至上主義で人間の本質を忘却してのばく進であったのだ。動の中で静を失った結果で文明の進歩がなんのために求められているのか「静かな心」で思考される余裕を失ったせいであろう。

私共が修業する剣の道も、剣道の本質を遠くに押しやって如何に稽古修業しても、剣の心剣の修業の彼岸に到達し得まい。人間の幸福を願っての文明の進歩であってこそ真の文明ではないだろうか。心を無視して技術一辺倒に偏した剣道と軌を一にしている。今こそ「静かな心」を取り戻そう。家庭にも社会にも政治にもどこにも「静かな心」の存在がないではないか。「身と太刀」とに懸待の道理ある事」「心と身」とに懸待ある事」内は静にして、外懸なれば外みだれざるなり、内外ともにごけばみだるるなり、内外たがいによべし、懸待、動静水鳥の水に浮かぶ如しと兵法家伝書は教えている。

剣道の修業の目的は動と静との均衡を求めていくことに尽きる、いわゆる動中静静中動の不可分を悟るにつきるのである。動きが激しくなればなるほど「静」でなければ対処できない。本当の動は真の静の中から初めて生まれる。

私共には社会のこの大きな病体を治癒させる力の持合せは残念ながらない。しかし小さい剣道人の社会なら個々の自覚と努力によって健康を取り戻すことは出来るだろう。私共が健康な心を取り戻すことによって、社会の健康が少しでも回復することになる。「懸中待」の剣の教えが剣道人の実践によって、社会を真の健康にみちびく導火線になるならば剣道の望外の幸せであり剣道のめざす方向と社会的役割をはたすことになる。

退任ごあいさつ

三木 只雄

この度、終戦時、占領政策により剣道が禁止されるといふ憂目に会い、これが復興運動に参画してより四十年目となり、理事長（この間会長業務にも代行）会長に就任してより二十年間、武道界が十年余に渉り待望久しかった県立武道館も来年六月頃には実現の見通しとなり、これらを一つの契機、区切りとして世代交替を言われている昨今、年齢も心身共に老化傾向を感じることを期し、剣道のより発展を願う余り、先般の総会に於て辞任を申し出たところ、御承認を得ました。

理事長会長在任中は、円満なそして充実した発展をと願望しつつ、不肖なりに務めさせて戴きましたが、役員始め会員各位の御理解と身に余る御支援御協力を賜り、大過なく遂行出来たと自負致し関係各位には衷心より深く敬意と感謝申し上げます。

顧みますと、昭和二十一年十一月末にフィリピンより無事復員することが出来て、二十二年一月三日恩師の尾形先生宅へ新年のお祝いと無事復員出来た挨拶に伺ったところ、「三木よ大変じゃ敗戦で占領政策によって剣道が禁止された。併し剣道は日本古来より平和を愛する精神文化の根源じゃ、これを絶やすことは絶対に出来ん。剣道を復興して永く継承させることは吾々の重大な責務じゃ。剣道関係者に呼びかけたが、一部の先生方は非常に消極的だが、山家、大沢善、竹原、山田武、河野等々の諸先生は大変積極的に復興を推進しようとの状況だ。君も共に努力しようではないか。」と言われ、大

いに賛同し先生方の鞆持ちとして微力を尽くし、他県の同志とも連携しつつ、進駐軍司令や関係機関に要望陳情し続けた結果、その誠意と剣道に対する理解が得られたのか、社会体育の一環として認可され、その喜びは一入でした。昭和二十四年十月末歓喜に浸りながら、復興運動に消極的であった先生方も呼びかけ、徳島県社会体育剣道クラブとして発足した。その際に選ばれて理事庶務係長に就任した。次いで二十五年三月に徳島県剣道クラブを徳島県剣道連盟と改称され引き続き理事に就任。その後平和条約が発効後、独立国家となるに及び二十七年十月に全日本剣道連盟が発足され、その傘下に加盟し、現在の如く戦前にも勝る盛況を呈している訳で剣道界のため、誠に慶賀すべき事態である。この間、尾形先生宅や竹原先生宅には、会合その他で大変御厄介を御懸けしました。その後、小生は二十五年三月頃より二十一年十一月、当地方に発生した南海震災による土地の地盤沈下で災害復興事業に駆り出されて、二十六年三月頃より四年有余の間、北島東部地区土地改良の組合長に選任され、客土事業に専念し、また三十年四月北島町議会議員に選出され、その議長として四年間町政に携わった関係で剣道クラブ発足以来八、九年間は若干剣道を疎かにした時代も有ったが、議会議員は叱られながらも一期で固辞し、三十五年以降は微力ながら聊か剣道本来の状態に戻り、その為かどうか四十二年三月には理事長に、五十年三月には会長にと選任の栄に浴し現在に至った次第であります。この間に種々と悲喜交々の事態がありました。先ず悲しいことは、高島先生を始め、最近では下村先生と多数の先生方に惜別したことであり、故先生方に対しましては、心から哀悼の意を表し御冥福を祈る許りであります。一方、喜びの部では多数あるが、先ず剣道の復興が認可され剣道連盟が結成されたことであります。次に四十六年八月全国高等学校総合体育大会剣道大会が城北高校に於て開催され、皇太子御夫妻が台臨され、その際に会長代行として参画出来たこと、次に四十八年四月第

二回世界剣道大会がアメリカにて開催され、各位の身に余る盛大な歓送会を催して戴き、ロスアンゼルスでは団体戦で日本選手の活躍で圧勝で優勝し、その際に親善試合があり多数の参加者中より特別試合に出場を認められ、最後の試合で自画自讃の様で少々面映い感がありますが、見事な面二本で勝利を得ることが出来てその夜のパーティーの席で大谷一雄団長外先生方より試合態度、技共に立派で模範試合にふさわしい結果であったとお褒めの言葉を戴き面目を施したこと。次いで、五十六年九月には第二十七回全日本東西対抗剣道大会には、主管県として企画運営と物心両面に涉り役員並びに会員各位の献身的な御努力により立派に取り行うことが出来、各方面より賞讃されたことであり、近くは近藤巨選手が全日本選手権大会で日頃の錬磨が稔り、準優勝と快挙を成し遂げたこと等々数えれば切りがありません。いずれに致しましても多年に涉り剣友同志として御教導御厚誼を戴いた大方各位に対しまして、重ねて厚く御礼申し上げます。

幸いにも跡継ぎとして能力実力兼備の堀江先生に任ぜられたことは、大船に乗った気持ちで一杯です。連盟発足四十周年も後二年です。

会長を中心に愈々、出満で充実した発展を心から祈念致します。小生も息のある限り剣道は勿論、体育スポーツ発展のため微力を捧げる存念です。

今後共に相変わらぬ御厚誼を宜敷くお願いして、退任の挨拶と致します。

合 掌



三木只雄徳島県剣道連盟名誉会長

目次

巻頭言	会長 堀江幸夫	
退任ごあいさつ	三木只雄	
目次		
わが郷土の剣豪紹介(各支部より)		1
人物紹介(各支部より)		8
徳島の剣道(各パートからの報告)		13
全国大会に参加して		17
昭和61年度戦いの跡		21
「あなたのためぞす剣道は」(アンケート)		32
昭和61年度昇段者名簿		39
昭和62年度剣道・居合道昇段審査学科試験問題・解答例		42
昭和62年度行事予定		64
昭和62年度職員一覧表		66
編集後記		68

△表紙▽

題字 堀江幸夫徳島県剣道連盟会長
 絵 伊原秀文徳島県剣道連盟審議員

わが郷土の剣豪紹介

〈三好支部〉

池田町に於ける剣道は、くわしい文献は残されていないが、明治初年頃から、関の山根といつて、剣道範士山根正雄先生が、剣豪の一人に数えられ、先生の門人が多くあつた。

池田町上野に大浦和平氏あり、山根先生の門人として郡内に名をなしてゐた。明治初年に自由民権思想の喧しいおり、政界に於ても新旧思想の対立により、争斗も起ころがちの際大浦氏は高知県方面迄にも雇われて暴徒の鎮圧に馳せ参じたとか相当の名声を博していた。この大浦和平氏について指導を受けたものに、爲実熊平、大西森藏、上野作太郎、高岡長太郎、島谷作太郎、大畑新藏、川原熊藏氏等がその名をなして、諸国より武者修業と来町せる劍客と試合して、益々腕を磨いていた。

当時、大日本武徳会総裁宮より剣道の称号を賜つていたものに、

- | | | |
|------|-------|----|
| 剣道錬士 | 爲実 | 熊平 |
| 剣道錬士 | 川原 | 熊藏 |
| 剣道錬士 | 橋本善太郎 | |
| 錬士 | 讚野仁四郎 | |
| 剣道錬士 | 上野作太郎 | |
| 剣道錬士 | 高岡長太郎 | |
| 錬士 | 三角 | 義郎 |

が
い
る。

(池田町誌より抜粋)

〈板野東支部〉

天羽 邦 茂

五十八歳 教士 七段(故人)

明治三十一年七月一日、板野郡北島町高房東堤下に生まる。移転、徳島市助任町前川に在住。昭和八年徳島刑務所内業務員として務め、後昭和十五年五月、北島町日本油脂株式会社織維部徳島工場入社、保安課に勤務。傍ら社内青年学校校長井上雪松先生(剣道五段)と共に、剣道指導に、また社内体育館に従業員を週三回剣道錬成に務め、また板野東支部武道発展に尽力されたが、昭和二十七年定年退社。昭和二十八年七月一日、昭和二十九年七月一日間、囑託として務め、退社。不幸にして昭和三十年十一月二十一日社宅において急性心不全に死去さる。享年五十八歳。

(北島町、中谷智好)

〈丹生谷支部〉

やまが 雪蔵先生

出身地 那賀郡驚敷町

剣道範士七段山家雪蔵先生は雪齋と号し、明治二十四年一月十五日、那賀郡驚敷町大字百合、西谷龍吉の五男として生まれた。長じて、山家キクエと結婚し山家姓を名乗った。一男一女を儲け、キクエ卒した後、戦後サワと再婚。幼少の頃より実兄石本寿之吉(善造)に師事して彫刻を習い、十五歳にして彫刻修業のため神戸に渡り、後、徳島市に住んだ。

剣道は、明治四十四年貫心流範士山根正雄先生の門弟となり、指導を受けた。大正六年徳島県剣道研究会結成に参画し、庶務会計を担当して二十五年

間その職にあられた。剣道研究会は、当時県内における唯一の剣道練成団体で、初段以上の剣士の集まりであり、会長は吉本彦吉範士であった。昭和四年、大日本武徳会剣道四段となり、昭和八年精練証の称号を受けられた。昭和十年、徳島市富田橋北詰の自宅に剣道場「振武館」を建設し、五段に昇段された先生は、日夜青少年に剣道の指導され、彫刻の弟子と剣道の弟子とで賑やかだった。昭和十三年四月から昭和二十年七月までは、県立德島商業学校の剣道教師をしておられた、西野四郎先生はその当時の俊秀であった。二十年七月戦災のため郷里驚敷町へ帰った。持ち物は焼跡より探し出した備前長船の一刀だけであった。帰郷の折の、ははえましい話が残っている。伯父が帰るといので、大八車を曳いて途中まで甥が出迎えに行つて驚いた。伯父一家だけと思つていたのに、大勢の人がついて来ている。聞けば共に戦災にあった近所の人達で、困つていたので誘つてきたと言う。住む所、食糧など、後で大変だったとのことである。戦後、剣道受難の時でも竹刀を離さず、昭和二十五年、剣道連盟丹生谷支部を結成し自ら支部長となつて、荒んだ戦後の青少年の善導と健全スポーツとしての剣道の重要性を説いて歩いた。片道八〇キロ丹生谷十カ町村の役場、学校を何回となく廻り、学校の教室を借り、時には校庭で剣道を教え、奨励し普及に努力した。その費用は全部自費であった。昭和二十八年県剣道連盟より表彰をうけ、同年七月県剣道連盟審議員に選ばれ、終生その職に在った。昭和三十二年十二月、驚敷町の自宅に振武館道場再建なり館長に就任、丹生谷地方の剣道センタ：として後輩の養成に尽力され、遠近の剣士機会ある毎に集まり、心・技の修練に精進した。昭和三十五年二月徳島県教育委員会より表彰、昭和四十年二月驚敷町長より表彰、同年十一月徳島県体育協会より表彰、昭和四十三年頃より歩行困難となる。昭和四十九年七月、徳島県知事武市恭信筆跡による「山家雪藏翁碑」が門弟の手により振武館前に建立された。裏面には長年の盟友範士高島吉吉先生の「讀」が誌されている。

山家雪齋氏は生涯をかけての清友にして今般氏の生存中に血の通う子弟より建碑の話を聞き欣快この上なきを覚え讃辞をおくるものである。氏は彫刻家を本業とするも傍ら県立德島商業学校剣道教師として多忙の身をおくった。氏又幼少より貫心流範士山根正雄先生に師事し近江佐久郎

先生吉本彦吉先生両範士を援け徳島県剣道研究会を組織しその主幹として剣道発展の礎を築いて来た。故キクエ夫人は剣道研究会婦人部を結成して夫君を助けた事の特記する。戦後は丹生谷に振武館を起し剣道振興に余生を没頭したことは周知の事実である。氏は又屢々剣道発展の功により県知事より表彰された。また今回の建碑に際しワサ夫人の内助の功の多大であることを後世に残すものである。

昭和四十九年四月吉日

昭和五十五年一月二十三日、逝去さる、享年九十歳であった。全日本剣道連盟は先生の武徳をたたえ、同年二月十一日付を以て範士の称号を送られた。

(吉田 租 記)

〈麻植支部〉

宮 本 仁 平

出身地 名西郡石井町浦庄大字上浦

生年月日 明治三十四年三月二十日

没年月日 昭和四十年九月七日

宮本仁平先生は、明治三十四年、名西郡石井町浦庄で、父、要三郎（農業）の二男として生まれた。大正四年農蚕学校卒業後、大正十年善通寺輜重兵十聯隊に入隊、大正十二年憲兵に転向し、舞鶴市を振り出しに京都市、津市、東京都、八日市市、北朝鮮清津市等の憲兵隊に勤務、終戦時は中国上海市滬東憲兵分隊長として敏腕を発揮し、「上海の虎」の異名をほしいままにしたとの話もある。憲兵大尉として要職にあった先生はB級戦犯として拘置され、非常なる忍耐を重ね冷え込め込みのほげしい生活を強いられるうちに、顔面神経痛を患い、後日独眼流と称される様になったのもそれが原因と言つておられた。剣道においては大正十三年大日本武徳会正会員となり、各地で剣道の修練を積むと共に、指導に当たられた。昭和九年剣道練士五段、昭和十七年達

士（現在の教士）、昭和三十四年七段に昇段。一方居合道に於ても、長谷川英信流を学び、昭和三十二年五月、居合道六段、続いて同年十二月教士の称号を享受され、名実共に剣豪として充実した伎倆を身につけて居られた。昭和二十七年三月葉鴨拘置所を出所し、川島町城山の住居に帰還す。其の後、本県の剣道界での目ざましい活躍が始まる。先ず、地元にては、麻植支部長として郡内の剣道振興に大いに努められ、各町村長を説得して支部への補助金獲得に成功し、麻植支部主催の剣道大会を開催し、立派な優勝旗を争奪したものである。町内に於ては、少年剣士の養成に力を入れる一方、川島高等学校、川島警察署で剣道指南、また松茂の海上自衛隊へも遠路指導におもむかれた。先生は「貴公」と言う言葉を良く使われたが、往時の人達は先生に「貴公」と声をかけられ、独眼流と呼ばれた片目でにらまれると大変威圧を感じたと言う話も残っている。一口にして言えば、古武士としての風格と、気骨をもった先生で、剣道も大変豪快であった。善通寺町で居合の講習があった時など物すごい気迫で稽古し、終日休むことも忘れて刀を振り続けた。午後には右手首が肉ばなれしてはれ上がってしまい、周囲から休む様しきりにすすめたが、何のこれしきと、遂に一日練習を続け、受講生一同其の根性にと肝を抜かれた思いであった。一方、日常は晴耕雨読の悠々たる生活で、吉野川を渡って善入寺島で一反歩程の農地を用意し、野菜作りに精出して自給自足の生活であった。徳島県剣道連盟にあっても、審議員として当時の指導の中心的役割を果たしてこられたが、昭和四十年九月七日、約二週間の病気で他界された。先生が創始された麻植支部主催の県下大会が、先生の追悼大会となり、支部員一同哀しみにくれたものであった。従七位勲六等宮本仁平先生の有名は、郷土の剣豪として永く後世に語りつがれることでしょう。

（平尾勝美記）

〈名西支部〉

久保利雄先生墓誌

剣道教士久保利雄先生は、慶応三年二月五日、徳島県名西郡浦庄村（今の石井町浦庄）国実に生まる。父は六十郎、母は地紙氏、先生資性剛毅廉直、明治十四年小学校の教程を卒うや和漢の典籍を宮他靈藏に受け、剣道を近久廉之丞に学ぶ。同二十二年、柳生神影流免許巻を授けられる。のち各府県を巡遊し錬磨に努め、同二十七年より三十七年に至る間、佐賀、福岡両県に武道場を開設せしは十有五、武名九州を圧す。大日本武徳会成るや、其特別会員に列し全国演武大会に於て、十五人勝牌を獲るに及びて、剣声日本に鳴る。同三十八年帰郷、久武館を創め、近久家より斯流の皆伝を享く。同四十年、徳島県立農業学校教師を嘱せられ、同四十二年武徳会より剣道精錬証を授けられる。同四十五年宮崎県立都城中学校教師嘱託歩兵聯隊将校団、宮崎県青少年団を指導する。大正十年六月武徳会演武大会に二十日以上出演の表彰を受ける。同十一年剣道教士に推される。同十二年文部省より中学校教員免許状授与され、都城中学校教諭に任ぜられる。同十三年罷めて帰郷徳島高等工業学校武道教授武徳会支部名誉教授を嘱せられ懇切に後進を指導し、昭和八年五月十九日病歿する。享年六十有七歳。

一剣以て剛健の精神を養い、一剣以て廉潔の情操を培う塵俗を禪脱し、生死を超越する先生の高風越山もかくなる莫く先生の清節芳川鑑むべし門人及び徳島県剣道研究会有志景仰措かず。仍て此碑を建て後昆に伝う。昭和九年四月。

〈美馬西支部〉

中尾 縫之助

出身地 美馬郡半田町蔭名一〇三六
生年月日 明治二十四年四月十八日生
中尾慶平の長男として生まれる。

履 歴 書

明治三十九年三月 半田尋常高等小学校卒業
 四十二年七月 尋常小学校准教員免許状受く
 四十四年四月 徳島師範学校乙種講習科入学
 大正 二年三月 企 校 卒業
 二年三月二十六日 尋常小学校本科正教員免許状を受く
 二年三月三十一日 久保尋常小学校訓導
 六年三月三十一日 日浦尋常小学校訓導
 十二年三月三十一日 岩倉尋常高等小学校訓導
 十三年三月三十一日 大阪市第二上福島小学校訓導
 昭和 八年三月三十一日 依願退職(家庭の都合に依り半田町へ帰郷)
 十年以降 郡里小学校・喜来小学校・貞光小学校を歴任する。
 十六年二月 十五日 死去

剣 道 歴

大正 二年一月 五日 貫心流免許目録を受く
 年 不 詳 貫心流離静之巻を受く
 大正十三年三月より昭和八年三月迄 第二上福島小学校に於て、森本(?)
 七段の指導を受け、北辰一刀流免許状(紛失)と長剣一振を授けられ
 る。
 昭和十年 半田駅前、柔剣道道場並びに柔道整復術の看板を掲げ、後輩の
 指導にあたる。

出張指導 八千代青年学校、郡里青年学校、半田町、公会堂、蚕業取締所、
警察道場、個人宅二カ所等

◎貫心流免許目録の抜粋

貫心流 目録

未剣術物 要令熱支體明心乎自知、未然勝負勝者得術多也 勝者得術
少也 而 於無術乎於此察之勝負見矣足下數年来茅屋貫心流之擊剣動之
予觀其 自通矣因以當流傳來之目録授之也

秘傳太刀 十四条

二掌口傳 三条

目付大事 二条

位 事 一条

他 六条(略)

義揚 貫心流

館印 濱谷 為三郎 印

大正二年一月五日

中尾 縫之助 殿

◎貫心流剣術離静之巻

本文……………略

日付なし 徳島県往

近江 佐久郎

輝勝 花印

◎第二上福島小学校時代恩師森本(?)七段

北辰一刀流を修業 免許目録一巻を授けられる(紛失)

銘刀一振 授けられる

亡父 思い出のこと

一 父は身長五尺二寸位であったが、首太く、胸厚く、胸囲一メートル七
センチもありました。人情に厚く、豪傑肌の人でした。
私が五、六年生の時でした。父はたわむれに「この人差指一本から逃げ
てみよ」といわれ、背中をおさえました。私は亀の子の様に手足をバタツ
かせるのみでした。とに角、腕力、握力が強く、気合術もなっていた様

でした。

二 長短二刀で戦ったこと

それは昭和十年頃のことであつたと思う。名前は忘れましたが、小野のはずれに当時剣道四段の人が住んでいました。どんなことで、父と戦うことになつたかわかりませんが、蚕業取締所（今の半田病院の地）で試合をするこゝになり、窓からこわごわのぞいていました。夏の夕ぐれの陽が流れる中、対峙したまま動かない二人に息づまる思いがしました。それはえらく長い時間のようでしたが、本当は一分か二分の僅かな時であつたかわかりません。突然、家をゆるがす様な裂帛の気合が同時に発せられ、三本の竹刀が空でからみあつた。白と黒のさし子の肌着がとびちがえた瞬間、カラカラと一本の竹刀が飛んだ。それは、夢をみる様な一瞬でした。二本の長短の竹刀が上下に伸びていた。父の勇姿でした。（終）

（二男 中尾 保 記）



〈阿波支部〉

佐藤亟三郎（心形刀流）

佐藤亟三郎は、文政三年八月九日（一八二〇）阿波郡香美藤太天須賀に生れる。字信手 棟斉と号す。容貌は人を射る鋭い目付で背高く逞しい体格の持主であつた。父を五郎兵衛篤信。劍号を常寛子と言ひ、江戸伊庭道場を模し、自宅の東南隅の道場を改築し、更に裏に学舎を建て青年に武芸、児童に書算を教えた。

祖父を亟左衛門信忠、劍号を常勇士と言ふ。心形刀流阿波藩師範多田三次右衛門幸衛に劍技を学び、奥秘を極め自宅で門弟を教えた。

佐藤家は、代々三町五反の拝領地を持つ原土侍であつた。住居地は吉野川の中洲（麻植郡川島町と阿波郡市場町の中間）現在の善入寺島藤太天須賀であつた。

この土地は善入寺島で最も高く、吉野川の増水時に水没の恐れ少なく、土質は肥沃で古来より良質の藍の産地であつた。

佐藤家は拝領地以外に広い私有の開墾土を持ち、藍作をしたので多額の資産を作つた。香美地区には三十余家の原土がおつたが、他の原土と違って経済的に恵まれたので、代々学問武芸に専念し、幕末期には三兄弟亟三郎、半作、哲五郎を江戸下谷の伊庭道場へ劍技修行に行かす事が出来たのである。

亟三郎は、幼名宗太郎と言ひ、幼少より聡明で赤松藍州、阿部椋亭に漢学を学び、後藤田南該に南画、劍技を父に学ぶ。三兄弟共俊才で、兄弟日夜文武を学び、文を以て知徳を修養し、武を以て心身を鍛練し、厳寒酷暑と言えど、一日も休まなかつた。その結果、亟三郎は当時阿波では右に出る若者が無き程上達したが、未だ飽き足らず大志を抱き、天保十四年（一八四三）伊庭軍兵衛の門下生になつた。

当時、伊庭道場は、神田お玉が池千葉周作の北辰一刀流玄武館、神田祖橋齊藤弥九郎の神道無念流練兵館、南八丁堀大富町桃井春藏鏡心明智流士道館の四大道場の一つに数えられた。また、この道場の特長は、後継者を定める

のに血縁関係者のみならず、門人中人格、技量の最優秀者を以てし心を練るを第一とした。それで、他の流派より成立は遅かったが、極めて格調高く実力は江戸随一と称せられた。

棟齊此の道場に入門するや、日夜刻苦勉励し、寝食を忘れ修行した。師、軍兵衛も彼の資質のあるを見抜き、教授したので門弟中より頭角を顕した。

修行期間後半には、早くも代稽古出来る腕前となり、師の推挙により肥前平戸大名松浦老岐守其の他大名三十余人に教えたと言われる。弘化二年五月（一八四五）二十五歳の時、免許皆伝、更に心形刀流表徳免状「常専子」を授与され、道場の後継者に期待されておったが、佐藤家の嫡子なる故一門中に惜しまれつつ、弘化三年（一八四六）帰郷した。

帰郷するや父に代わり「原土目付き」となり、祖父同様藩主の朝謁を賜わった。帰郷を聞いた郷土の者多数教えを受けに集まり、彼の門人に教えるに江戸で修得した技を基にして、新しい指導要領・改良した道具を普及したので、道場の名声は益々揚がった。

棟齊は嘉永六年（一八五八）米艦浦賀に来航した時、藩命により原土隊三十人出動した。その一人として浦賀に役し、更に本県日和佐奉行に（一八六四）転動した。明治新政府になると、明治三年民政所仕配を命ぜられ、大里長輔となる。同年六月学区取締役となった。

彼、数々の要職につき治政に尽くしながらも、在宅の時には一日も休むことなく児童には学術を、剣技の修練は晩年になるも怠らず門人に教えた。この数、実に千人を越すと云う。

明治四十一年八月二日、九十一歳で天寿を完了した。

法名 徳光院眞楽常専居士

墓所 徳島市吉野本町万福寺

場所 市場町香美 善入寺島 藤太天須賀

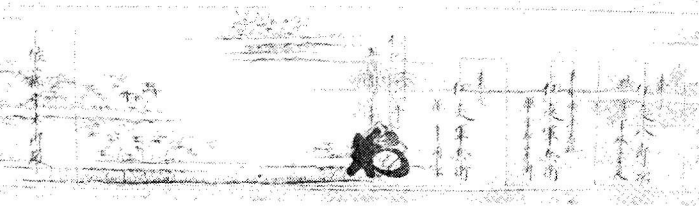
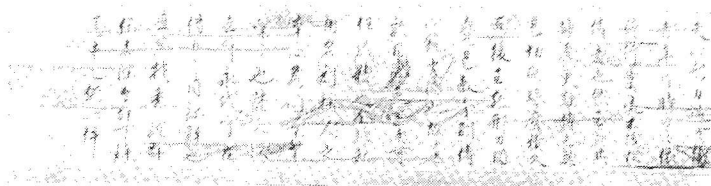


（大正五年善入寺島は吉野川遊水地になり、人家全部立ち退き、佐藤家は徳島市中常三島に移転。）

佐藤壺三郎が井後家の嗣子井後儀三郎に心形刀流の表徳「常彰子」を与えた免状



佐藤宗太郎（壺三郎の幼名）が八代伊庭軍兵衛より受けた印可状



夫心形刀の儀は年月時日の修業に依って当流残らず相伝し者也。然れどもその妙処に至りては更に伝へ難し、是において切磋琢磨積むこと久しうしてのち形刀円覚に至る。是れ教外。別伝心鏡の徳なり。故に目録を免置遣し精に任すべきなり。同じく私用名利に非ず。人之本心にかない門葉繁栄のためなり。請文血印永代あるべし。伝刀之目録を許すなり。かつその材郡に秀。御志深きに依り今印可を許すものなり。よつてくだんの如し。

養子 伊庭軍兵衛 源常同士
弘化二乙巳年 五月天晴日
佐藤宗太郎殿

表徳免状
夫れ心形刀流の儀 数年
懈怠無く修行を加ふ。其の志の深き事
寔に感心と爲す。故に先生より傳へ来る
表徳、常彰子 與許す。早
日 師範たる者は申すに及ばず 同門
中遠慮無く差引これ有るべき
者なり。仍て免状件の如し

佐藤常専子（佐藤壺三郎）
信手 信手

明治三十一年

喜久月吉辰

井後常志子

佐藤坂三郎の弟

信儉

(井後哲五郎 信儉)

井後常彰子

嗣子

井後儀三郎

豪剣 西岡島太郎

古老に聞く、伊藤一刀斎景久の一刀流の奥義を学んだのが、下大野村太平三十番地の西岡島太郎であった。明治の初め頃、同地において道場を開き、村内は勿論、近郷の青壮年を集め、自ら指南役となり剣一筋に身を挺した。八幡神社の祭礼の余興等に毎年境内において剣道大会が盛んに行われていた。その中で豪の者は、近藤信藏、阿部十兵衛と当時の巡査近藤実は剣道充許を有し、剣道に没頭した。明治十年頃、西岡島太郎は私財を殆ど剣道指南に投資し、遂に畑田川流域の橋川に住居を移して没す。今なお豪壮な石垣土倉があり、雑木の中に一家一族の墓石が残っている。

当時の道場は下大野村の野村茂氏が農作業場として利用していたが、度々改築されて今はその姿を消した。これが大野村の剣道の始めであった。



昭和61年度 第41回山梨国体剣道競技会場

人物紹介（各支部より）

〈丹生谷支部〉

西浦 新（71歳・六段・農業）

昭和五年同好の士とともに剣道を始め、昭和二十二年剣友会々々長三十三年町長表彰を受く。その後一時病で中断、四十七年再開竜虎館々々長として家業を顧みず年間二百日以上少年剣道の指導に専念し、剣道を通じ少年非行の防止健全育成に貢献され、その功績に対し知事表彰を受く。益々御健勝でご精武の程お祈り致します。

岡田 豊（32歳・五段・出原郵便局）

十一歳の頃より剣道を始める。昭和四十九年那賀高を優秀で卒業、同年出原局勤務同年四月より大和錬心館少年剣道部担任指導者として月火水木金土毎日の練習年間三百日以上の指導に専念、昭和五十九年五段を取得、責任と実行力のある人、仕事と剣道にかける人、益々の御精進をお祈りします。

〈三好支部〉

山下 利幸（47歳・二段・西阿土木KK）

中学生の長男が、剣道を修業して居る関係上、道場に入入りして居るうちに剣道の魅力に取り付かれ、四十五歳より剣道を始め昭和六十一年九月二十二日二段に昇段、現在井川町武道会にて少年指導の手だすけを致すかたわら同武道会の副会長として、また町議会の文教委員長として井川町武道発展に大きく寄与致し居ります。

久保 和雄（49歳・三段・農業）

昭和二十九年剣道を始める。昭和三十七年三月二十日初段、昭和五十三年七月二日三段受領し、昭和四十八年五月三野剣道同好会を発足させ、昭和四十九年には三野少年剣道クラブを発足代表指導者として現在に到り、現今は小中学生約三〇名を三野中学校体育館に於て指導なされ三好支部幹事として三野少年剣道クラブと共に三好郡剣道に活やく致して居ります。

萩田 奉弘（42歳・三段・たばこ産業KK池田工場）

昭和三十六年六月高校二年の時初めて竹刀をもつ、六カ月後初段に昇段昭和三十八年一月二段に昇段其の後ずっと国金先生の指導のもと先生の片腕となって少年指導を続けていたが、故あって昇段試験を受けずにいたが、昭和六十一年三月三段に昇段する。現在箒蔵剣道教室に於て少年一五名成人三名の指導にあたり、三好支部幹事として教室並びに支部のため非常に活やくされて居る。

〈名西支部〉

重井 好高 (65歳・七段・徳島右武道館々々)

全日本剣道連盟教士七段、銃剣道錬士。徳島県剣道連盟審議員、氏の武道は十二歳にはじまる。旧制麻植中学在学中は故石井隆介範士に師事し本格的に修業しいちじるしい上達を見せた。卒業後現役入隊陸軍中尉で終戦。昭和二十五年警察予備隊発足と同時に入隊、同四十六年十二月二等陸佐で勇退するまで陸上自衛官として勤務する。この間剣道は一日も休むことなく錬成を続け、退職後は農業に従事しかたわら地域の少年豆剣士の指導育成に当たるなど剣道を通じて社会奉仕に専念していた折、農舎老朽のため改築の止むなきに至ったのを期に日頃念願の剣道場開設に意を決し、文武不岐(左文右武)の精神に基づく徳島右武館を創立し、敬愛する京都右武館々々長岳田政雄範士を名誉館長に仰いで、幼きは幼稚園児(年長組より)小学生、中学生、高校生、一般を週三回、火、木、土曜日午後四時から指導育成に当たっている。きびしさの中に温情溢れる指導は技術面だけでなく精神の高揚に熱意を燃やし剣道を通じて青少年の健全育成に深く取り組んでおりその活躍と精華が期待される。

〈板野西支部〉

糸谷 文雄 (62歳・五段・農業)

武道や遊芸スポーツなどで修業に真剣に積極的にとりくみ、これに興味と生き甲斐を感じて暇さえあれば上達をめざして精進努力している者を稽古の虫とよぶことがあるが、糸谷文雄氏はまさに剣道の稽古の虫である。

彼は大正十四年生まれの六十二歳で、若い時は柔道を修業して三段の免許

を持つているが、剣道を習いはじめたのは約十年前の昭和五十三年からである。動機は彼が土成町議二期目のとき土成少年剣道教室を視察した時、少年の練習を見て、剣道は年をとっていても子供と一緒にできるよい運動だと思いい練習をはじめようになったのである。

最初は土成少年剣道教室で週二回稽古をしていたが、約一年後からこの稽古のほかにも、阿波剣道教室の月曜水曜の早朝稽古と市場剣道教室の火曜木曜の早朝稽古にも参加し、更に阿北剣友会の金曜日曜の稽古にも参加して、現在も殆ど皆勤の状態稽古に励んでいる。彼はこの一週間の定期的な稽古の他に、早朝稽古の日の夜は藍住町の道場や徳島市内、石井町内の道場へも絶えず出稽古に行く。又県剣連主催の講習会や土用稽古寒稽古には遠距離をいとわず殆ど皆勤で出席している。一昨年の秋、彼は難聴となり県内の数カ所の公立病院で治療を受けたが、結果が思わしくないので、台湾の医師で台湾省内の剣道の総指導者である呉建堂教士七段に漢法療法で治療を受けながら剣道の修業をしてくと単身剣道具を担いで台北まで出掛けたこともある。

彼は稽古の時は先を争うようにして先生方の指導を受けている。打たれることに意義を感じ、打って反省打たれて感謝の気持ちで常に剣の理合を念頭に稽古にはげんでいる。

彼は酒は生来飲まないが、煙草は一日に二箱も吸うヘビースモーカーであったが、数年前に、稽古の時の呼吸に悪いからと一念発起断乎禁煙して稽古に精進している。

糸谷氏は高年齢から稽古をはじめたため勝敗を第二義的に考え理合の探究を主に精進している。この間に得た技術面より精神面での剣の諸徳性の体得は測り知れないものがあると思う。

剣道の理念は剣の理法の修練による人間形成の道であると全剣連が提唱している。彼の今後の一層の精進を祈り、小生も彼をお手本にして今後の剣の道に精進したいと考えている。

(板野西支部長 出口 嘉平)

〈阿波支部〉

井内 勝則（31歳・剣道四段・居合道四段）

阿波の北方地方は幕藩時代の原土を中心として、農民、町人に至るまで文武の修練に励む者が非常に多かった。その伝統を受け継いだ為か剣道を志す者が非常に多い。特に市場町の八幡神社の広い大きい拜殿は格好の道場であった。そのため終戦後柔剣道の禁止令が解除されるや、いち早く同好の士が集まり、水を得た魚の如く嬉々として剣道再開の喜びを分かち合ったのもこの八幡の道場であった。私共は一日の仕事が終わるや毎晩のように自転車を踏み道場に通い夜中近くまで暑い時も、寒い時も一心に錬成に励んだ。また、この道場で中学校の剣道クラブの練習も始められ放課後は元気の掛け声と竹刀の音が境内一杯に響き渡っていた。その時毎日のようにこの練習を見に来ていた一人の小學生がいた。身体は小柄であったが目が輝き顔が引きしまり、精悍そうであった。毎日拜殿入口の石段に腰掛けてじっと生徒の練習を見つめていた。剣道が好きで好きでたまらないといった表情であった。その子供がここに紹介する井内勝則の幼年時代の姿である。

彼は小学校を無事卒業するや、八幡中学校に進学して待望の剣道クラブに入部して三年間一心不乱に練習に励み、若さと、身体の俊敏性を生かし、着々実力を高め卒業時には有段者となり市場中学校（八幡中学校は市場中学校と合併）の現在の男子部の隆昌の基礎を築いていた。

中学校卒業後は高校進学をせず大工の棟梁である父の所でその後継ぎとしての建築技術の習得に専念した。その間一時剣道から遠ざかっていたが努力研究の甲斐あって高度の技術をも習得し、父の代行も十分果たせるようになった。大工修業中は剣道練習も意の如くならなかったが、ようやく父の諒解も得られ再び自分の好きな道を歩むことが出来るようになった。警察道場を借りての練習、剣道教室での練習等昼の仕事の疲れも忘れて一心に剣の修練に打ち込んだ持ち前の負けん気と、根気強さと、若さの力で実力をつけ数年間のブランクを埋めていった。努力の結果は毎回の昇段試験に如実に現れ毎度

一回でパスをした。県代表として全国青年大会にも選ばれて参加した。彼の旺盛な意欲と努力は必ず将来立派な花を咲かせ実を結ぶであろう。現在の彼の段位は四段である。また数年前より阿波郡に於て居合道が盛んになり彼も剣道練習の合間に居合の練習にも励み持前の努力心と向上心で難しい技を相次いで習得し昨年十二月の昇段審査に於て四段位を授与された。現在も本場に多忙な仕事の合間を縫って剣道教室の児童の指導と同時に自己の次の飛躍を目指して絶間ない努力精進を続けている。彼こそ将来阿波郡の剣道発展の中心的役割を果たす人間として成長して行くであろう。

（文責 那須）

〈海部支部〉

森本 好美（62歳・練士五段・無職）

四十余年にわたる勤めを終えて自由を謳歌している身であります。人生も六十の坂を越えた今、振り返ってみると色んな試験や審査を経験してきました。中等学校二回目に合格、高等専門学校二回目、教員採用審査一回、教頭登用審査一回、校長登用審査三回目に合格、その他、軍隊の学校一回目、警察官一回目（辞退する）にパスしました。然し私にとっておそらく最後の審査であると思われる剣道六段の審査は、今までにない受審回数を重ねながら、未だ合格しておりません。県剣道連盟本部の先生方や、郡内先生方の御熱心な御指導を賜わりながら、ただ自分の力の至らなさを恥じるばかりです。

剣道は小学校四年生から始め、以後学生生活を通じてずっと続けてまいりました。ちょうど太平洋戦争の最中で、軍事教練や勤労奉仕に追われ十分な稽古はできませんでした。それでも高専時代の稽古は厳しく、脳天がしびれ一瞬目がくらみ、思考が止まったかと思われる激しい面、手首の骨が折れるような激痛に竹刀を取り落とした小手、足がらみで倒され後頭部を打ち起き

上がれないところを、容赦なく打ち続けられたこと、連続かかり稽古で血へどを吐かんばかりのこと、血のまじったような小便、面の中で涙したことも幾度かありました。技よりも気力で相手を圧倒する剣道を教えられてまいりました。

思いもかけず祖国は敗戦となり、捕虜生活後復員して職場に復帰いたしました。生活に追われ、仕事に追われた上、心のよりどころを失った私に剣道をする気力はなく、何十年の空白が流れました。再び竹刀を握ったのは、今から八年ほど前でありました。でも何十年の空白はあまりにも大きいものであります。

審査に不合格となった自分の剣道を反省してみると、第一に基本がしっかりと身についていないことであります。打つたびに姿勢がくずれたり、足の運びに乱れがでたり、打ちに気剣体一致がないことであります。全く練習不足をさらけ出しました。第二に気力に乏しいことであります。何が何でも、もぎとっていく気魄を是非つけたいです。相手の中心を攻めきってそこを電光石火に打つ剣道を目指します。

今後基本稽古にたちもどり、気魄のこもった剣道を心がけてまいりたいと考えています。諸先生この上も宜敷くお願いします。

丸岡 英明 (41歳・四段・海部生コンクリート共同組合)

初めて竹刀を握ったのが小学六年の時、中学校へ入学すると同時に剣道部が出来さつそく入部、それから早三十年近くになった。高校入学はしたものの剣道部がなく他校へ数日練習に行ったが自分の防具もなくその学校も防具が少なく断られてしまいました。それでもどうか三年の時初段をうけることが出来ました。就職後は剣道をする機会もありませんでした。ふとしたきっかけで二段を受ける事が出来ました。その後地元中学校へ時々練習に行き三段を受ける事が出来ました。職場が変わり高校のある町へ就職。仕事が終わった後その高校で数年間練習することが出来て三段受験後十一日目で四段を受けることが出来ました。現在は地元で保育所の子供や小学生を

集めて週二回の練習をしています。子供たちには強くなるより大きな声であいさつや返事の出来る子供になるように指導しています。基本をしつかり身につけるといふ事は言うまでもありません。特に高学年の生徒には自分自身が将来指導者になる剣道を望んでいます。自分の防具で練習出来る今の小学生がひじょうにうらやましく思っております。子供の練習が終わった後一般の方々との練習も行っており、月一度の郡内の一般の人たちとの合同練習も楽しみの一つです。五段を目指してガンバッテいる今日この頃です。

〈阿南支部〉

加林 敏央 (43歳・教士五段・自営)

小学六年より笹倉太郎先生に指導を受け小松島高校では選手で活躍し早くより自宅に立派な道場を建て、育英館と称して三〇名余の少年を育成し毎年全国大会にも出場する熱心な剣道家で人柄も誠実温厚で人望も厚く羽浦小PTA会長も勤め本年三月教士号を受領し毎日少年育成と六段に向かって猛練習中です。

坂東 宣哉 (22歳・四段・阿波銀行勤務)

小学四年より阿南少年剣道教室で剣道を初め阿南小並びに阿南中で選手として活躍し、富岡西高で沢井先生に鍛えられ鹿児島高校全国大会には主将として大いに活躍し、青山学院大学に進み剣道部で一層修練し本年卒業と同時に阿波銀行に入社、この三月の阿南市内剣道選手権大会に見事優勝した新人剣士です。

徳島の剣道

各パートからの報告

一般

徳島県剣道連盟事務局長 坂下 彦之

県内の大会では、三者対抗（教員・警察・実業団）が警察、武道館開館記念大会は丹生谷支部A、社会人大会は警察支部、段別選手権は、三段吉田（警察学校）、四段吉田（県警）、五段福多（徳農教）、六段近藤（県警）が優勝。

全国大会では、近藤（県警）が全国剣道選手権大会で見事に準優勝。全日本選手権大会では、米倉（県警）が一回戦で強敵田村（警視庁）に勝ち好調にすべり出したが、二回戦で権瓶（新潟）に惜敗。全国教職員大会個人戦で大石（新野高教）・寺西（穴吹中教）がそれぞれ高・大・教委の部と女子の部でベスト8入り。寺西は優秀選手に選出された。

四月と十一月には、講習会を実施。七月の暑中げい古、一月の寒げい古にも多数の参加者が集まった。

48国体の準備の一環として、十二月には小学生四・五年の女子を対象に強化錬成大会を実施。男子とともに好選手の発掘に努力している。

48国体の成功に向けて、徳島県剣道界が総力をあげてレベルアップを図っていききたい。

女子部

県立徳島中央高等学校教諭 手塚 十三子

一般的に剣道離れが巷間うわさされているようですが、幸い本県においては女子の剣道は着実に延びを示しており、有難いとも気強いことだと喜んでおります。昨秋剣連主催の講習会に一般婦人の参加を呼びかけましたところ、多数の方が出席受講されて真剣に勉強していただき強く存じました。本年より女子選手権大会の独立開催、その上近く国体に女子の部ができましたので今後の女子剣道の発展に拍車がかかって参ります。

ご承知のとおり剣道は稽古すればするほど言葉に言い表せない、技術的にも、精神的にも魅力を感じるようになります。男性と違って女性は体力的に劣るので段位なども女性のみの段位を作ってはと全剣連では真剣に考えられているようですが、大変生意気な考えですが私は反対で、豪快な剣道は男性に任せ、女性は女性の特性を生かして功緻性に富んだ剣道を志向すればよいと思います。スピード、瞬発力等非力をカバーするために柔よく剛を制する剣道を目指すべきでしょう。

中高生は勿論一般女性も徹底的に基本を身につけ、そうして精神面の充実を図る、徒に竹刀を振り回す剣道ではなく正しい体と竹刀の運用を心掛けていきたいものです。そこに女子剣道の良さが発揮されるでしょう。

勿論剣道の目的は人間形成です。人格の陶冶です。男性女性の区別はありません。女性の特性を十分發揮して正しい剣道の普及発展に寄与したいと思います。女性剣上活躍を心からお祈りします。

高校

川島高校教諭 塩田 善治

四月に開かれた会長杯争奪大会は男子阿南工が勝ち、富岡西、富岡東と続いた。女子は二年連続三回目の優勝を富岡東が飾った。二位徳島市立、三位

川島の順であった。高校総合体育大会では男子は大接戦の末那賀高が優勝しインターハイへ出場し、以下富岡東、川島、阿南工となり、女子は富岡東が、川島に競い勝ち、富岡西、新野が入賞した。男子個人戦では、福井、島田（富西）が一・二位、女子も林・国見（富岡東）が全国総体の出場権を得た。国体には、岡山（阿工）、富田（新野）、山川・小川（那賀）、長尾（川島）が出場したが残念ながら好成績は残せなかった。全国総体では女子の富岡東が予選リーグを勝ち決勝トーナメントに進出した。十一月に行われた選手権大会で今回初めてフリー参加とし、男子一八四名、女子一二六名が出場し、男子は、山田（川島）、松田（鳴工）、北村（川島）、富田（松高）、女子は、林が一位となり、河野・楠と富岡東が上位を独占し、四位に山本（生光）が入った。新チーム最初の新人大会では富岡西が九回目の優勝をし、那賀・川島、女子は昨年に続き富岡東、富岡西、脇町の順位であった。今後は強化合宿、遠征等を行いながら長期的展望の上でレベルアップを考えていかねばならないと思われる。六十四年香川で開かれる全国総体、六十八年徳島開催の国体を目標とし各チーム努力されることを期待します。

中学校

附属中学校教諭 石井 博

六月の選手権大会では、男子は宮浜が那賀川を接戦の末破り、女子は阿波が木頭に代表決定戦までもつれこんだ末勝ち、それぞれ優勝。七月の総体は、団体戦では男子宮浜が阿波を下し、女子是那賀川が初めて決勝に進出した伏兵山川を下し優勝。個人では、男子三年佐野（那賀川）、二年吉田（阿波）、一年近藤（宮浜）、女子米倉（阿波）が優勝した。

地元開催の四国総体では、男子団体県対抗で見事に優勝。学校対抗では、男子宮浜・女子那賀川がそれぞれ準優勝。個人戦では、男子武知（附属）が準優勝、吉田（阿波）が第三位。女子米倉（阿波）が優勝、田上（那賀川）が準優勝とよく健闘した。

全国大会においては、昨年に引き続き男子宮浜、女子那賀川とも予選リ

グを突破。宮浜は、見事ベスト8入りを果たし、二年連続徳島県代表チームが全国六千チームの最高レベルに到達する偉業を成し遂げた。

新メンバーになった新人大会では、男子は木頭が宮浜を下し、女子は阿波が木頭を接戦の末下し、それぞれ優勝した。現在のところ、男子では、木頭・宮浜・阿波・相生が頭一つ抜け出し、それに、驚駭・鴨島一・市場・那賀川・海南・徳島・羽浦が続ぎ、女子は、阿波・木頭・那賀川が抜き出ており、山川・阿南一・市場・上八万・日和佐・穴吹がそれに続いている。

48国体を控え、成果があがりつつある強化合宿をさらに充実させ、各学校の剣道部指導者の一層の協力を得て、競技レベルのアップとマナーの向上を図りたい。

小学校

少年部長 大沢 孝彰

昭和六十八年（48国体）に徳島で実施される国体剣道大会まで後六年しかない。

六十一年度はとにかく優秀な少年を多数発掘して少しでも向上すべく錬成会を実施した。男子小学生四年五年（48国体時高二高三）の部は六十年度錬成会上位入賞者等が参加して六段以上の先生方多数のご出席を得て午前基本錬成先生方に打ち込み稽古掛り稽古と充分錬成した。午後は学年毎試合錬成で結果は殆ど前回通りでした。

六十一年十二月には県下女子小学生四年五年全員参加して第一回の錬成会で先生方の指導を受けた。午前学年毎試合錬成午後先生方に切り返し打ち込み稽古掛り稽古と大変効果ある大会でした。試合は四年五年共北川小学生が大健斗上位入賞を独占した。第二回錬成会では北川勢に負けないよう精進をお願いする。

今年度は小学生五年六年の強化錬成を少年部の最大目標としたい。特に六年生は来年度中学へ進学する、この一年間で格段の向上をして中学へ送り出したい。この為万難を排して錬成会も数回実施したいと考えています。少年

諸君の懸命の頑張りと先生方の絶大なる御指導御支援をお願いします。

居 合

高 橋 憲 司

四月六日、昭和六十一年度の県剣道連盟主催の最初の行事として、毎年七月に高松市で開催される香川居合道大会に参加する選手の選考を兼ねて、第九回県下居合道段別選手権を実施し、初段から始まる各段に熱の籠った試合が展開されたものである。

四月の大阪八重垣会居合道大会参加に続いて、七月には香川居合道大会と大分居合道大会が同日に開催された事から、本県からは前者には初段から六段までと、後者には、初段から七段までのチームを編成して参加し、大分大会では二回戦で対戦した宮崎研修会チームに各段の選手が全て三対〇で勝つといった活躍等があった、参加二十六チーム中ベスト8に進出したものである。

八月には武道館開館記念大会に初めて居合道部の参加が認められて、原田・高橋両錬士が演武したものである。

九月十六・十七両日の全剣連主催「居合道指導者講習会」には、本県から平尾・野口両受講生が派遣せられて講習を受け、その後月曜日の武道館での練習会において県内での伝達講習会を実施したものである。

今後の居合道の在り方について、十二月十四日に開催された大阪居合道大会の開会式において、紙本栄一錬士が「昭和四十四年に全剣連によって制定せられた制定居合が、その後の全剣連及び各剣連の努力と研究によって、今日にはその普及の域に達したものであり、これまではややもすると制定居合が重視され勝ちではあったが、今後は居合の本質に立ち帰って古流を互いがもっと修練・研究し合う事が必要であろう」旨の挨拶をされたものであり、ここ数年機会ある毎にその在り方が問われていた古流が、全剣連レベルにおいてある種の方向づけがされたものとみられるものである。

十二月六・七日には恒例の大阪より坂本・福田両錬士をお迎えしての県下居合道講習会を実施して、今年度の居合道部の行事を締めくくったものである。

徳島新聞での剣道の話題

あすを目指す

小 藪 香（木頭中1年）

那賀郡丹生谷地区は昔から剣道が盛んなところ。小藪が剣道を始めたのも北川小二年生の時から。がっしりした体格にも恵まれメキメキ上達。小学校六年生の時、阿土剣道大会で優勝し、第三回全日本小・中学生女子個人選抜錬成大会（昨年十月二十日・福岡市）に県代表として出場、小学生の部で見事栄冠をかつさらい一躍、県関係者から注目された。

「私の武器はものおじしない性格。練習での実力がそのまま発揮できました。」

現在、一五二センチ、四〇キロ。木頭中レギュラー五人の中で、一年生は小藪だけだが、切り込み役の先鋒を務めている。十五日、県武道館で開かれた第十五回県中学校選手権大会では団体女子決勝でチームは阿波に惜敗したが、小藪は阿波の長松と引き分けた。コテからメンに移るスピード豊かな攻撃力は男子顔負けと関係者を驚かせた。石井博専門部長（附属中教）も「女子選手で小藪ほど踏み込んで打てる選手はいない。足、腰がしっかりしているのと豊富な練習をこなしているのでしょう」と目を細めた。

富浦広志監督（わか杉寮監）は「楽天的な性格で試合でも百パーセントの実力が出せる。体の左側の線がいくぶん硬いという欠点もあるが、このまま伸びてくれれば全国トップクラスの選手になれる可能性は十分です」と期待を寄せている。小藪自身も「全日本で優勝できるような選手になりたい」と夢は大きい。

木頭中の一年生は全寮制のため、小藪も自宅（同村大字北川字大岸）から車で約二十分離れたわか杉寮で生活を送っているが、家に帰れば同じ剣道をしている妹の千鶴さん（北川小六年）と剣道談議に花を咲かせる。当面の目

標は県中学総体で「優勝します」ときっぱり。六十四年にインターハイの四国開催を控えている県高体連にとっても小藪の成長が一段と望まれるところだ。

中学選手の励みに

県剣道連盟が初の表彰

県剣道連盟（三木只雄会長）は今年度から中学校の優秀選手を表彰することを決め、このほど、三十三人の表彰選手を発表した。

48国体を目指し、長期的な強化を図るため、将来を担う中学選手の励みにしよーというもので、初年度は男子、県総体優勝の佐野隆紀（那賀川）ら二十人、女子は四国・県総体優勝の米倉聡子（阿波）ら十三人。また特別表彰として、生徒数四十五人のへき地校ながら全国大会で男子ベスト8入りを果たした宮浜の富田正監督と、女子・那賀川（同ベスト16）の斎浩市監督に優秀指導者賞が贈られることになった。

なお、表彰式は一月二十五日、県武道館で開く県中学校新人大会の開会式の席で行う予定。優秀選手は次の通り。

▽男子 近藤健司、小川大造、前田敏彦、谷口清隆、藤田大輔、蛇目英樹、花川敏彦（以上宮浜）、佐野隆紀、小野勝、小川圭治、福岡仁吾、（以上那賀川）、吉田一之、篠告雅人（以上阿波）、長井薫（市場）、福井昭浩（木頭）、石田雅也（八万）、前田剛（相生）、八木綾一（城西）、高木常雄（川島）、沢口普臣（坂野）

▽女子 鈴木千尋、田上陽子、吉岡久美子（以上那賀川）、米倉聡子、長松明代、小方理恵、篠原早苗（以上阿波）、折上恭子、西弥生（以上木頭）、近藤加奈子、井内三美（以上市場）、中西由美（富田）、大谷仁美（山川）



山梨国体剣道競技場

全国大会に参加して

第34回全日本剣道選手権大会

徳島県警察本部機動隊 米 倉 滋

私は、昭和六十一年十一月三日、東京日本武道館において行われた第三十四回全日本剣道選手権大会に本県の代表選手として出場しました。各種剣道大会の中でも最も盛大に行われる当大会に出場できることは大変名誉なことでありまた、本県の代表選手として恥ずかしくない試合を行う様心掛け、一戦一戦全力で戦い上位入賞を目指すべく試合に臨みました。

試合は、六段以上の各都道府県の代表五八選手によって行われ、私は、一回戦の第四試合で東京都代表の田村選手と対戦し、上段の田村選手に対し突きを決めて一本勝ち、続く二回戦は、第三試合において新潟県代表の権瓶選手と対戦しました。試合開始早々面を先取りされた私は、挽回すべく積極的に攻撃を仕掛けましたが、有効打突なく時間切れとなり一本負けを喫しました。剣道の目的は、剣道の修練を通じて心身を練磨することにより、人間形成を行うのであります。私は、剣道の修練の過程において〇〇先生の様な剣道をしたいたか、××大会で優勝したいという様なある目標をもって剣道に取り組むことが大切であると考えています。私自身現在、全日本剣道選手権大会に優勝することを一つの目標として日々練習に励んでいます。そして、剣道の修練を通じて良き社会人、立派な警察官になりたいと思っています。

第25回全日本女子剣道選手権大会

穴吹中学校教諭 寺 西 佳代子

平均年齢二〇・二歳。十代、学生選手が大部分を占め、私の大学時代の剣友たちの姿も少なくなっていく。そんな中で、筑波大の先輩で、かつて全日本学生選手権者の宮崎（旧姓内田）先輩が、一歳をむかえた愛娘の応援の中、見事ベスト8入りを果たしたのは力強い刺激を与えてくれた。

さて、今回で私は三度目の出場になる。初戦の相手は昨年の全日本学生選手権者の堀田（金沢大）上平小教諭選手。今まで顔をあわせたことがなかったので、肩書きにこだわらずに試合ができ、延長の末、どうにかメンが決まって二回戦……。二回戦の相手は、昨年の教職員大会で敗れた村上（国土館大）秋田の教諭選手だったため、変に意識してしまい、慎重さに欠けた、自分としては悔いの残る試合となってしまった。いかなる相手であろうと、先入観をもたず無心で戦うことの大切さを改めて感じさせられたように思う。

全体的にふりかえると、やはり上位に残る選手は攻めが積極的だし、打ちにスピード、強さ、思いきりのよさがある。それを身につけるためには、社会人という立場ではなかなか練習の場も少ないが、かかり稽古、打ちこみを自ら求め、しっかり行い、少しでも近づいていきたいと思う。

第16回全国中学校選抜剣道大会

宮浜中学校 前 田 敏 彦

八月二十五日、僕たちは、茨城県水戸市で行われた全国中学校選抜剣道大会に出場しました。この大会に出場できたのはこの日を夢み、この日のために、苦しい練習に耐え、みんなが力をあわせ、頑張ってきた結果だと思っています。その間、何度かやめようと思ったことがありましたが、剣道をやっていると、本当によかったと思います。

試合は、ほとんど、どのチームも変わらなく紙一重の勝負であり負け

感じはしませんでした。むしろ、それ以上に、今までにない闘志が全員に沸きやる気十分で試合に臨むことが出来ました。

一試合目は、二対二の本数勝ち、二試合目は四対一で勝ち決勝トーナメントに出ることができました。この予選が一番印象に強く最も苦しかったです。決勝トーナメントでは、一回勝ちましたが、準々決勝で負けました。でも試合では、全員が日頃の練習の成果を十分発揮し、自分達の剣道ができたと思います。

入賞はできなかったけど、ベスト「8」そして「敢闘賞」をもらった時は嬉しかったです。これも、指導して下さった富田先生、岸先生のおかげだと思っています。また、色々お世話くださった剣道関係の先生方、ご父兄の皆様ありがとうございました。これからは、この体験をいかし、何事にも力いっぱい頑張っていきたいと思います。

第40回国民体育大会

剣道競技に参加して

徳島県立阿南工業高等学校 岡 山 悟 士

十月十二日僕達は、監督の大石先生と新幹線で会場のある山梨県富士吉田市へ向かった。目的地に近づくと、闘志が湧いてきた。道の端には、旗が何処にもわたって続いており、僕は、国体に出場するのが初めてなので、その盛大さに驚いた。

十月十三日大歓声の中、トランペット楽団が演奏するテーマ曲と共に大会の幕が開かれた。僕も、徳島県選手団の一員として行進した。一步一步グラウンドを踏みしめながら、この国体でしっかりやろうと決意を新たにしました。

いよいよ試合当日、いままで顔を見せなかった富士山が、すばらしい姿を見せてくれた。まるで、僕達を激励するかのように見えた。しかし、僕達は、第七試合目、山梨県代表と対戦した末、健闘むなしく試合に敗れてしまった。ただ、僕は、この大会に参加したことで、言葉ではいいあらわせないほ

ど大きなものを僕の心の中に吸収できた。最後にこの大会で得たことを糧として、今後なお一層心身・技ともに精進していきたいと思えます。

第八回全日本高齢者武道大会に参加 並びに徳島県高齢剣友会発足について

徳島県剣道連盟審議員 西 野 四 郎

表記大会が日本武道館にて六月九日に開催、年毎に参加者が増え全国から剣道四八六名、銃剣道二一七名、なぎなた一〇七名の八一〇名が参加盛大に挙行されました。本年からは特に八〇才以上の老剣士から強い要望があり、従来のC組六〇才以上・B組六五才以上・A組七〇才以上・特組七五才以上の四段階に加えて寿組八〇才以上・が四三名、優勝をかけた実で若者顔負けの好試合が演ぜられ、本県の阿部国太郎先生が八十八才のご高齢で見事第三位の栄冠に輝きました。特組の清原先生とC組の吉田先生が四回戦、B組の勝浦・山田富両先生と西野が三回戦にそれぞれ進出したが、阿部先生を除いて総じて思わしくない成績に終わった。然し我々高齢者にとって何事にも勝る生き甲斐を求める事が出来た。それは竹原常雄先生を会長に七〇名からなる県高齢剣友会が五月に結成され、十一月には、第一回県高齢者剣道大会が開催された事です。剣道を心から愛し「親睦、健康、研修」を目標とし、青少年剣道の育成にまた、会員相互間の合同稽古等々、この事が全日本高齢者武道大会に躍進できる基盤になれば至上の喜びと念ずるものです。

第一回県下高齢者剣道大会の成績は次の通り(敬称略)

	優勝	準優勝	第三位
A組	清原 栄	中川虎雄	平岡竹雄 蝦名久作
B組	山田富康	西野四郎	勝浦 守 兼田 繁
C組	吉田 祖	高田 豊	遠藤一美 平尾勝美

第21回全日本居合道大会

高橋 憲 司

第二十一回大会が、昭和六十一年十月二十五日、新潟市体育館において、四十五都道府県から五・六・七段の代表選手が参加して開催されたものであり、本県からは七段に原田勝錬士、六段に高橋憲司錬士、五段に森田幸衛選手が各々参加をし、個人演武の部に平尾勝美教士が参加したものである。

試合方式は従来通り、各回戦毎に指定が変更される制定居合が三本と、これもその変更が望ましいとされる古流二本によって実施されたものであるが、今大会では、先に「指定技を間違えて試合に勝つ」といった事例が起こったために、対戦をしている両県の監督若しくはそれに準じた者が控えに坐して、万一そのような事態が生じた折には、その申し出ができる旨の方法が前夜の監督会議の席で討議決定されて、試行されたものである。

本県勢の戦績は、七段の部は原田選手が一回戦に秋田の畑沢選手を、続く二回戦には福岡の藤瀬選手を各々二対一で退け、三回戦で沖繩の西平選手に三対〇で勝って四回戦に進んだが、対戦した岡山の佐藤選手に二対二で惜敗してベスト4進出はならなかったものである。六段の部は一回戦で、対戦した広島の本田選手に二対二で敗れて戦績は振るわなかったものである。五段の部は森田選手が一回戦不戦勝の後、二回戦で鳥取の多良選手に三対〇で勝って三回戦に臨んだが、対戦した岐阜の古山選手に二対二で敗れてベスト16に留まったものである。今大会を終えて、六段の部の戦績の如何では全国順位での上位進出が望めたものであり、今後居合の本質をよく見極めた上でさらに心・技の向上を目指さなくてはならないとの反省を強くしたものであった。

各段の優勝戦は、七段の部は高知の三谷昭雄選手が岡山の佐藤選手を降し、六段の部は新潟の草間選手が、五段の部は同じく新潟の石塚敏郎選手が各々優勝を飾って、団体戦の成績は、地元新潟県が優勝をし二位東京都、三位山口県であったものである。

剣道少年団体験発表

全国大会最優秀賞

『剣道を習ってスケールの

大きな人間になりたい』

徳島県光武館剣道少年団中学一年生 増 金 孝 浩

東洋一の大吊橋として、一昨年完成した大鳴門橋が、天下の名勝鳴門の渦潮をまたいで、落着いた雄大な姿をみせる観光都市鳴門に、僕が剣道を習っている光武館道場があります。

僕は幼いころ父に連れられてよく剣道を見に行きました。そのころの僕は小児喘息で、季節の変わりめや、ちょっとした気温の変化で発作がおき、苦しがって、父や母を心配させていたものです。

「お前も剣道を習え、ほしたら喘息もなおるやらわからんぞ」と、口癖のように父に言われても、「頭をたたかれたら、あほうになるけんいやじゃ」と言って逃げてばかりいました。二つ年下の妹が先に剣道を習い始めました。週三回の稽古には、妹について道場に行っては外で遊んでばかりいました。

「遊んでいるのはもったいない、お前も剣道をしろ」と先生が、どんなにすすめてくださっても、僕はうんという気持ちにはなれませんでした。そんなある日のことです。足の少し不自由な先生が、「わしのような体でもやれるんじゃ、剣道をやれ」とおっしゃってくれたとき、何故か、「よしやってみよう」という気持ちにさせられ、やっと剣道を習い始めました、小学三年生の終りごろのことでした。

それより以前に僕は、日本海洋少年団の鳴門支部に入団していました。

海洋少年団というのは、次代を担う少年少女が「海に親しみ」「海に学び」「海に鍛える」をモットーに、海を道場として集団訓練を受け、自律心、自助能力を養い、心豊かな国際社会人となることが目的の団体であります。そこで僕たちは、進んで善いことを行い、あらゆることに積極的にならなければならないことを

は、進んで善いことを行い、あらゆることに積極的にチャレンジしてゆくことを学びます。

それは道場での教えと、とてもよく似ています。剣道少年団団員綱領のなかに、

「わたくし達は、多くの国々の人と交わり、力を合わせて、平和な世界を築きます。」

というのがあります。僕は、地球上に住む人間はみな同じだと思います。やがて僕たちが生きていく二十一世紀には、国と国との隔絶のない、平和な世界国家が実現するかもしれません。その時に剣道で鍛えた、正しい心が役立つものと考えています。

道場では剣道を始める前に、準備体操のひとつとして、駆足をします。ある日僕は、道端にところかまわずにころがっている空缶を見て「先生、今度走る時に、あの空缶ひろいをしてら」と、言ってみました。すると先生は、「お、ええところ気がついたな、誰が一番ようけ拾うか競争するか」とおっしゃって、ビニール袋をくれました。

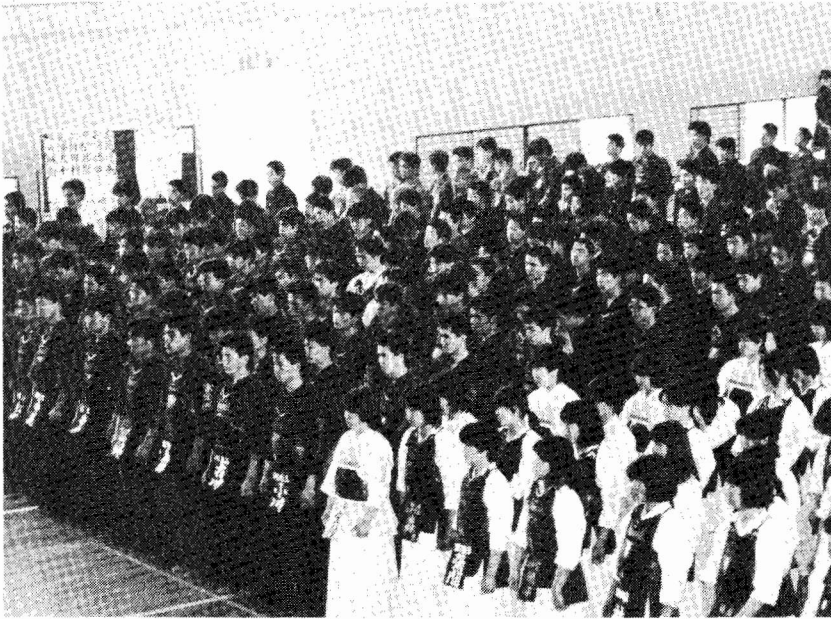
僕たちは競争で空缶を拾って走りました。中には四〇も五〇も拾った仲間もいます。

僕らが走ったあとは、みるみるきれいになり、草花が生きかえり、溝がすっきりとできました。いくら空缶を投げ捨てる人があってもそれを根気よく拾う人があれば、町はいつも美しさを保てるのではないかと思います。そんなことをしているうちに僕は、剣道が好きになり、ふと気がつく、あの苦しかった小児喘息がなおっていたのです。剣道はあまり強い方とはいえませんが、僕は何事も真剣に、脇目もふらずにすれば必ず、満足のいく結果が得られるものと考えます。

昨年山形県で行われた、日本海洋少年団の手旗送受信競技に、選ばれて出場しました。手旗信号は、大変集中力を必要とする競技です。そのとき僕は、剣道で身につけた集中力が、今ここで生かされているのだと思いつながら、旗を振りました。

父や母は一生懸命働いて、僕と妹の成長のために、自分たちの喜びや、楽しみを犠牲にして、お金を出してくれます。道場の先生は、公私ともご多忙

な方ですが、少しの時間をさいても、僕らに剣道を教えてくれます。この大人の方々の心を受けついで僕たちは、近づく二十一世紀に生きる、立派な人間にならなければなりません。そのために僕は、毎日竹刀をにぎり、学校の勉強に励んでまいります。そして、いつもちりひとつなく清潔な光武館道場のように、清らかでどっしりと、あらゆる人を受け入れる、スケールの大きな人間になりたいと思います。



高校剣道大会開会式

しみを犠牲にして お金を出してくれませう。道場の先生は、公私ともご多忙

昭和61年度 戦いの跡

【県内】

◆第9回県居合道段別選手権大会

(4月6日鳴武)

- ▽初段 ①高野康寛 ②宮和雄
- ▽二段 ①松田明治 ②弘光正憲
- ▽三段 ①中山繁輝 ②坂本憲一
- ▽四段 ①吉岡修一 ②西山光次
- ▽五段 ①森田幸衛 ②青木茂生

◆第11回三木杯高校剣道大会

(4月20日徳農体)

- ▽1回戦 脇町3-2城北、市立4-1東工、城ノ内5-0貞工、阿工5-0生光、城東5-0日和佐、鳴工3-2阿波、富東5-0徳商、池田3-2安喰商、城南4-1徳農
- ▽2回戦 川島3-2脇町、市立4-1城ノ内、阿工4-1徳工、城東4-0鳴門、那賀4-1鳴工、富東4-1新野、富西4-1池田、小松島3-2城南

1川島、阿工3-2城東、富東3-2那賀、富西3-1小松島

▽準決勝

阿工3-2市立

富西3-2富東

富東4-1市立

▽決勝

阿工2-1富西

小川メ-メ福井

中村ド-コド福多

○戸田反-島田

○春木メ-富沢

岡山-湯浅

【女子】

▽1回戦 城ノ内4-1徳工、新野3-2鳴門、日和佐3-2那賀、市立4-1海南、脇町5-0城北
- ▽2回戦 富東5-0城ノ内、富西4-0安喰商、川島4-1新野、日和佐4-1城東、市立3-1池田、名西4-1徳商、小松島5-0阿波、脇町3-2生光

▽準々決勝 富東5-0阿波、富東5-0阿商、城東4-0富西、小松島4-1脇町

10富西、川島5-0日和佐、市立3-1名西、小松島4-1脇町

▽準決勝

富東3-2川島

市立3-2小松島

▽3位決定戦

川島4-1小松島

▽決勝

富東4-1市立

○林コ-尾形

○河野ド-宮田

○谷メド-西山

藤井-メメ三木

○国見ド-秋吉

◆第17回県下中・高武道大会

(5月11日鳴武)

【中学校男子】

①宮浜 ②木頭 ③那賀川 ④鳴門

【高校男子】

①阿工 ②富西 ③那賀 ④川島

【高校女子】

①川島 ②富東 ③生光 ④小松島

◆第26回県高校総体剣道競技

(5月31日、6月1・2日徳農体)

第1日目

▽1回戦 脇町5-0阿商、城東4-0三好、▽2回戦 川島3-1脇町、穴吹3-2名西、城南3-1新野、鳴門4-1水産、那賀4-0安喰、徳工4-0城ノ内、池田2-2城北、鳴工3-2小松島、富西5-0阿波、生光4-0日和佐、板野4-1辻、富東4-1東工、市立5-0美馬、徳農4-1貞工、徳商2-2神山分、阿工5-0城東

同点は得点差により決定。

【女子】

▽1回戦 鳴門3-2城南、徳工3-1穴吹、日和佐4-1城北、脇町(棄権)阿商、城ノ内3-1安喰、徳商2-2阿波、富西5-0辻、新野4-1名西、那賀4-1海南
- ▽2回戦 富東5-0鳴門、日和佐5-0徳工、脇町4-1城東、川島5-0城ノ内、生光4-1徳商、富西3-0小松島、新野4-1池田、市立4-1那賀

第2日目

【男子】

▽3回戦 川島5-0穴吹、城南3-1鳴門、那賀5-0徳工、鳴工2-2池田、本数勝ち、富西4-1生光、富東5-0板野、市立4-1徳農、阿工5-0徳商

▽準々決勝 川島3-2城南、那賀5-0鳴工、

富東2-2富西=本数勝ち、阿工2-2市立=本数勝ち、富東2-2富西=本数勝ち、阿工2-2市立=本数勝ち

川島、那賀、富東、阿工が決勝リーグへ

【女子】

▽準々決勝 富東5-0日和佐、川島3-0脇町、富西2-2生光=本数勝ち、新野3-2市立

富東、川島、富西、新野が決勝リーグへ

【男子個人】

▽準々決勝進出者 古川(富東)池田(徳農) 福井(富西) 島田(小松島) 島田(富西) 田中(脇町) 正岡(東工) 春木(阿工)

【女子個人】

▽準々決勝進出者 林(富東) 田中(新野) 小川(川島) 中村(富西) 小林(川島) 谷(富東) 喜多(新野) 国見(富東)

第3日目

【男子】

▽決勝リーグ
富東3-2阿工 那賀3-1川島
富東3-2川島 那賀3-1阿工
那賀1-1富東=本数勝ち
川島3-1阿工

▽順位 ①那賀3勝 ②富東2勝1敗 ③川島1勝2敗 ④阿工3敗

【女子】

▽決勝リーグ

富東4-0新野 川島4-1富西
富西4-1新野 川島3-2新野
富東1-1川島=本数勝ち
富東3-2富西

▽順位 ①富東3勝 ②川島2勝1敗 ③富西1勝2敗 ④新野3敗

【男子個人】

▽決勝リーグ
①福井洋文(富西) 2勝1敗 ②島田(富西) 2勝1敗 ③古川(富東) 1勝2敗 ④正岡(東工) 1勝2敗

【女子個人】

▽決勝リーグ
①林美枝(富東) 3勝 ②国見(富東) 1勝2敗 ③小林(川島) 1勝2敗 ④中村(富西) 1勝2敗=2-4位は本数勝ちによる。

◆第15回県中学校剣道選手権大会 (6月15日徳武)

【男子】

▽1回戦 小松島3-1南部、入田3-0江原、阿南2-0大麻、鳴門4-1池田、阿南5-0脇町、

貞光2-0板野、阿南2-1牟岐、山川3-0徳島、市場5-0国府、高浦4-0山城、鳴門2-3-1新野、松茂4-0川内、平谷4-1日和佐、坂野3-0津田、川島4-0海部、文理2-1穴吹、石井3-1城東、驚敷2-1応神、北島3-1加茂名、海南4-1羽浦、富田4-1半田、池田5-0上八万

▽2回戦 宮浜5-0小松島、阿南4-1入田、鳴門3-1阿南、附属3-1貞光、木頭3-1阿南、藍住2(本数勝ち) 2山川、市場3-1高浦、城西3-1鳴門、阿波3-0松茂、坂野4-0平谷、川島2(代表戦勝ち) 2文理、相生4-0石井、驚敷2(代表戦勝ち) 2鴨島、八万4-1北島、海南2(本数勝ち) 2富田、那賀川4-1池田

▽3回戦 宮浜5-0阿南、鳴門1(本数勝ち) 1附属、木頭5-0藍住、市場1(代表戦勝ち) 1城西、坂野2(本数勝ち) 2阿波、相生3-2川島、八万3-2驚敷、那賀川4-1海南

▽準々決勝 宮浜5-0鳴門、木頭2-1市場、相生2-0坂野、那賀川3-0八万

▽準決勝 宮浜3-1木頭、那賀川3-2相生

▽決勝 波3-1那賀川

▽準決勝 波4-1富田

▽決勝 波2-2木頭

(代表戦勝ち)

▽決勝

宮浜3-2那賀川

○藤田ドコ-小野

○谷口コメ-西岡

○前田-メコ福岡

○近藤メメ-小川

小川-ドメ佐野

【女子】

▽1回戦 加茂名(不戦勝ち)牟岐、石井3-1海南、阿南4-0脇町、富田3-2羽浦、穴吹3-2上八万、山城4-1川内、阿南3-2城東、木頭4-1松茂、南部4-1江原、日和佐3-2附属、市場4-1鴨島、山川4-0城西、入田5-0北島、川島3-2津田、那賀川5-0池田

▽2回戦 阿波5-0加茂名、阿南5-0石井、富田4-1穴吹、阿南3-2山城、木頭5-0南部、市場2(代表戦勝ち) 2日和佐、山川4-0入田、那賀川4-1川島

▽準々決勝 阿波3-1阿南、富田2-1阿南、木頭4-1市場、那賀川4-1山川

▽準決勝 波4-1富田

▽決勝 波3-1那賀川

▽決勝 波2-2木頭

(代表戦勝ち)

◆第40回県中学校総体剣道競技

(7月20日城西中)

【男子団体】

▽1回戦 坂野3―1新野、附属4―1藍住、半田4―0勝浦
 戦 木頭2―1坂野、阿波5―0池田、川島5―0脇町、城西5―0高浦、附属3―1市場、鳴門1―5―0池田一、八万3―2海南、宮浜5―0半田
 △準々決勝 阿波3―2木頭、城西3―2川島、鳴門3―2附属、宮浜4―1八万

▽準決勝

阿波 4―1 城西
 宮浜 3―2 鳴門

▽決勝

宮浜 5―0 阿波

○小川 メメーコ 吉田
 ○藤田 ココ 篠原
 ○谷口 メー 中川
 ○前田 メド 松村
 ○近藤 コメー 吉田

宮浜は16年ぶり3度目の優勝

【女子団体】

▽1回戦 山川5―0松茂、富田5―0穴吹、入田3―1海南、阿南1―4―1城東、那賀川5―0石井
 2回戦 市場3―2山城、山川2―(代表戦勝ち)2富田、阿波4―1入田、那賀川3―1阿南

▽準決勝

山川 3―1 市場
 那賀川 3―2 阿波

▽決勝

那賀川 3―2 山川

○吉岡久 メメー 福島
 ○鈴木 ドメー 川野
 ○田上 コメー 池村
 吉岡路 ー 秋田
 福住 ー 大谷

那賀川は初優勝。

【男子個人1―1年】

▽3位決定戦

原 コメー 小坂
 (鳴門一) (附属)

▽決勝

近藤 ココ 船越
 (宮浜) (阿南)

【二年】

▽3位決定戦

谷崎 コー 北川
 (相生) (海南)

▽決勝

吉田 メコ 笠井
 (阿波) (鴨島一)

【三年】

▽準決勝

小川 ドー 吉田
 (宮浜) (阿波)

佐野 コメー 武知
 (那賀川) (附属)

▽3位決定戦
 吉田 ドー 武知

▽決勝
 佐野 コー 小川

【女子】
 △準決勝
 米倉 メー 田上
 (阿波) (那賀川)

西 メー 吉岡

(木頭) (那賀川)

▽3位決定戦
 吉岡 メメー 田上

▽決勝
 米倉 メー 西

◆第4回教員・警察・実業団対抗剣道大会 (7月27日徳武)

実業団 9―7 教員

尾関 メー 喜多
 ○仁木 コー 斎員

○佐藤 コー 村井

○片山 メメー 柴田

○高木 メドー 山西

○熊沢 コー 中山

○鈴木 メメー 加藤

○森 メー 榎本

○元木 コメー 富田

○吉永 ドー 石井

○松村 コー 芝原

○来代 メー 立川

○伊賀上 コー 高野

○北條 メメー 岸

○柏原 メメー 高島

○田村 メー 沢井

○警 察 14―3 実業団

○吉田茂 メドー 尾関

○株木 ー 仁木

○平野 コドー 佐藤

○田村 ドコー 片山

○佐賀 メー 高木

○青木 メメー 熊沢

○四宮 メメー 西宇

○吉田彰 ドコー 鈴木

○武岡 コー 森

○吉田昌 メー 元木

○近藤 メコー 吉永

○米倉 コメー 松村

○那倉 コメー 来代

○藤本 メコー 伊賀上

○藤川 メメー 北條

○美馬 コー 柏原

○中尾 メコー 田村

○警 察 15―2 教員

○吉田茂 ドメー 斎員

○株木 メメー コ喜多
○平野 コメー メ村井
田村 コーメメ 柴田○
○佐賀 メメー 山西○
青木 メー ココ 中山○
○四宮 メメー メ坂東
○古田彰 メメー コ加藤
○武岡 メメー 榎本
○吉田昌 コー 富田
○近藤 メメー 石井
○米倉 メメー 芝原
○那倉 メコー 立川
○藤本 メコー ド高野
○藤川 ココー 岸
○美馬 メコー メ高島
○中尾 コメー メ沢井

▽個人準々決勝
坂田 メー 納田
(高知) (香川)
吉田 メメー メ藤田
(徳島) (徳島)

▽準決勝
坂田 メー 吉田
武知 コー 岡本
▽決勝
坂田 コメー 武知

▽県対抗リーグ戦 ①高知2勝1敗
②愛媛1勝2分け ③徳島1勝1敗
1分け ④香川1勝1敗1分け||3、
4位は勝ち人数による。
高知は2年ぶり2度目の優勝。

▽学校対抗リーグ戦 ①山田(香川)
3勝 ②那賀川(徳島) 2勝1敗
③城東(愛媛) 1勝2敗 ④鏡野
(高知) 3敗
山田は初優勝。
▽個人準々決勝
国村 コー 大津
(香川) (香川)

田上 コー 神谷
(徳島) (愛媛)

▽個人準々決勝
田上 コー 神谷
(徳島) (愛媛)

▽個人準々決勝
田上 コー 神谷
(徳島) (愛媛)

▽個人準々決勝
田上 コー 神谷
(徳島) (愛媛)

▽個人準々決勝
田上 コー 神谷
(徳島) (愛媛)

▽個人準々決勝
田上 コー 神谷
(徳島) (愛媛)

▽個人準々決勝
坂田 メー 納田
(高知) (香川)
吉田 メメー メ藤田
(徳島) (徳島)

▽準決勝
坂田 メー 吉田
武知 コー 岡本
▽決勝
坂田 コメー 武知

▽県対抗リーグ戦 ①高知2勝1敗
②愛媛1勝2分け ③徳島1勝1敗
1分け ④香川1勝1敗1分け||3、
4位は勝ち人数による。
高知は2年ぶり2度目の優勝。

▽学校対抗リーグ戦 ①山田(香川)
3勝 ②那賀川(徳島) 2勝1敗
③城東(愛媛) 1勝2敗 ④鏡野
(高知) 3敗
山田は初優勝。
▽個人準々決勝
国村 コー 大津
(香川) (香川)

田上 コー 神谷
(徳島) (愛媛)

▽個人準々決勝
田上 コー 神谷
(徳島) (愛媛)

▽個人準々決勝
田上 コー 神谷
(徳島) (愛媛)

▽個人準々決勝
田上 コー 神谷
(徳島) (愛媛)

▽個人準々決勝
田上 コー 神谷
(徳島) (愛媛)

▽個人準々決勝
田上 コー 神谷
(徳島) (愛媛)

▽個人準々決勝
田上 コー 神谷
(徳島) (愛媛)

米倉 コー 折上
(徳島) (徳島)
塩見 メコー 加洲
(高知) (愛媛)

▽準決勝
田上 メー 国村
米倉 ドー 塩見
▽決勝
米倉 コー 田上

▽4年 ①高浜慎也(高浦) ②瀬野
(市場) ③西川(北川) ④小笠(阿
南) ⑤5年 ①天羽将文(大野)
②河内(佐古) ③有松(小松島) ③
石田(徳鍊)

▽4年 ①高浜慎也(高浦) ②瀬野
(市場) ③西川(北川) ④小笠(阿
南) ⑤5年 ①天羽将文(大野)
②河内(佐古) ③有松(小松島) ③
石田(徳鍊)

▽4年 ①高浜慎也(高浦) ②瀬野
(市場) ③西川(北川) ④小笠(阿
南) ⑤5年 ①天羽将文(大野)
②河内(佐古) ③有松(小松島) ③
石田(徳鍊)

▽4年 ①高浜慎也(高浦) ②瀬野
(市場) ③西川(北川) ④小笠(阿
南) ⑤5年 ①天羽将文(大野)
②河内(佐古) ③有松(小松島) ③
石田(徳鍊)

▽4年 ①高浜慎也(高浦) ②瀬野
(市場) ③西川(北川) ④小笠(阿
南) ⑤5年 ①天羽将文(大野)
②河内(佐古) ③有松(小松島) ③
石田(徳鍊)

▽4年 ①高浜慎也(高浦) ②瀬野
(市場) ③西川(北川) ④小笠(阿
南) ⑤5年 ①天羽将文(大野)
②河内(佐古) ③有松(小松島) ③
石田(徳鍊)

▽4年 ①高浜慎也(高浦) ②瀬野
(市場) ③西川(北川) ④小笠(阿
南) ⑤5年 ①天羽将文(大野)
②河内(佐古) ③有松(小松島) ③
石田(徳鍊)

▽4年 ①高浜慎也(高浦) ②瀬野
(市場) ③西川(北川) ④小笠(阿
南) ⑤5年 ①天羽将文(大野)
②河内(佐古) ③有松(小松島) ③
石田(徳鍊)

▽4年 ①高浜慎也(高浦) ②瀬野
(市場) ③西川(北川) ④小笠(阿
南) ⑤5年 ①天羽将文(大野)
②河内(佐古) ③有松(小松島) ③
石田(徳鍊)

○佐々木 メメー 仁木
○加藤 ココー 西岡
○富田 ドコー メ大津

▽団体 ①大野小剣道ク ②那賀川
少年剣道ク ③阿南少年剣道ク ③
小松島小剣道ク
大野小剣道クは初優勝。

▽個人(6年) ①元木宣敏(徳島
錬心館) ②泉(鳴門光武館) ③松
原(橘剣道教室) ③佐野(北井上
剣道教室)

▽個人(6年) ①元木宣敏(徳島
錬心館) ②泉(鳴門光武館) ③松
原(橘剣道教室) ③佐野(北井上
剣道教室)

▽個人(6年) ①元木宣敏(徳島
錬心館) ②泉(鳴門光武館) ③松
原(橘剣道教室) ③佐野(北井上
剣道教室)

▽個人(6年) ①元木宣敏(徳島
錬心館) ②泉(鳴門光武館) ③松
原(橘剣道教室) ③佐野(北井上
剣道教室)

▽個人(6年) ①元木宣敏(徳島
錬心館) ②泉(鳴門光武館) ③松
原(橘剣道教室) ③佐野(北井上
剣道教室)

▽個人(6年) ①元木宣敏(徳島
錬心館) ②泉(鳴門光武館) ③松
原(橘剣道教室) ③佐野(北井上
剣道教室)

▽個人(6年) ①元木宣敏(徳島
錬心館) ②泉(鳴門光武館) ③松
原(橘剣道教室) ③佐野(北井上
剣道教室)

▽個人(6年) ①元木宣敏(徳島
錬心館) ②泉(鳴門光武館) ③松
原(橘剣道教室) ③佐野(北井上
剣道教室)

▽個人(6年) ①元木宣敏(徳島
錬心館) ②泉(鳴門光武館) ③松
原(橘剣道教室) ③佐野(北井上
剣道教室)

◆四国中学総体剣道競技

(8月3日城西中)

【男子】

▽県対抗リーグ順位 ①徳島3勝

②香川2勝1敗 ③高知1勝2敗

④愛媛3敗

徳島は8年ぶり2度目の優勝。

▽学校対抗リーグ順位 ①高知(高

知) 2勝 ②宮浜(徳島) 1勝1敗

1分け ③久万(愛媛) 1勝1敗

④協和(香川) 1勝2敗||2、3位

は勝ち本数による。

高知は2年連続4度目の優勝。

◆48国体強化錬成大会

(8月8日徳武)

▽4年 ①高浜慎也(高浦) ②瀬野

(市場) ③西川(北川) ④小笠(阿

南) ⑤5年 ①天羽将文(大野)

②河内(佐古) ③有松(小松島) ③

石田(徳鍊)

◆第26回武道館開館記念武道大会

(8月10日徳武)

▽準々決勝 丹生谷支部3-0 海部

支部C、名西支部A1(代表戦勝ち)

1警察学校A、笠井整形2-0 入田

錬成B、阿南支部B1(代表戦勝ち)

1佐古剣道クラブ

▽準決勝

丹生谷支部 2-1 名西支部A

阿南支部B 2-1 笠井整形

▽決勝

丹生谷支部A 3-0 阿南支部B

◆第7回県下女子剣道大会

(8月29日鳴武)

▽決勝リーグ

A組 ①徳島東A ②鳴門 ③徳島

西

B組 ①石井 ②北島 ③驚敷

《政闘賞》

徳島東 巡査 貞野日出男

徳島西 巡査 広瀬 啓二

鳴門 巡査 清野 洋二

石井 警部補 乾 清孝

北島 巡査 貝沼 源晟

驚敷 巡査部長 井筒 一夫

◆管内矯正職員武道選手権大会

(9月5日徳島県)

西宇 康治 (徳刑)

吉田 コメー (阿南支部)
寺西 メー (鳴門支部)
森崎 手塚 (中央高教)

▽同決勝

【小学校】
①阿南少年剣道教室 ②那賀川少年
剣道クラブ ③大野小剣道部
【中学男子】
①阿波 ②木頭 ③鴨島第一
【同女子】
①阿波 ②山川 ③日和佐

◆第11回県下剣道段別選手権大会

(9月7日鳴武)

【男子】

▽初段の部3位決定戦

北村 メコー 天野 (鳴工)

▽六段の部3位決定戦

米倉 ドメー コ那 倉 (県警)

福多 コー (徳農教) 武岡 (県警)

全日本剣道選手権
県剣道連盟は十日、全日本選手権
(十一月三日・日本武道館)への県
代表に米倉滋六段(県警)を選び、
発表した。九日夜の選考委で決定し
たもので、米倉六段は五年ぶり四度
目の県代表。

①富西 ②城東 ③富東

①富東 ②富西 ③新野

【同女子】

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

【一般】

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

▽同決勝

寺西 メー (鳴門支部)

手塚 (中央高教)

来代 (三好支部)

丹生谷支部)

▽同決勝

福多 コー (徳農教)

武岡 (県警)

米倉 ドメー コ那 倉 (県警)

近藤 メメー (上八万中教)

▽同決勝

近藤 メメー (上八万中教)

榎本 (市立)

尾形 (協町)

川人 メメー ド尾 (協町)

林 メコー メ椋 下 (富東)

▽同決勝

林 メコー メ椋 下 (富東)

▽二段の部3位決定戦

福島 ココー コ石 川 (小松島)

協町)

▽同決勝

宝積 メコー 張 間 (富西)

▽同決勝

宝積 メコー 張 間 (富西)

▽三段以上の部3位決定戦

安芸 メコー ド森 田 (徳大)

▽三段以上の部3位決定戦

安芸 メコー ド森 田 (徳大)

▽三段以上の部3位決定戦

安芸 メコー ド森 田 (徳大)

安芸 メコー ド森 田 (徳大)

安芸 メコー ド森 田 (徳大)

【小学校】

①阿南少年剣道教室 ②那賀川少年
剣道クラブ ③大野小剣道部

【中学男子】

①阿波 ②木頭 ③鴨島第一

【同女子】

①阿波 ②山川 ③日和佐

①阿波 ②山川 ③日和佐

【高校男子】

①富西 ②城東 ③富東

①富東 ②富西 ③新野

【同女子】

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

①讃志会 ②木頭錬心館 ③阿南支
部A

【男子】

▽準々決勝

松 田 メドーメ 河 野

(鳴工)

富 田 メコーメ 香 川

(小松島)

山 田 メメーメ 春 木

(川島)

北 村 メドーメ 鳴 川

(川島)

松 田 メコーメ 北 村

山 田 コー

▽3位決定戦

北 村 メメー

山 田 メー

山 田 メー

▽準決勝

河 野 メー

(富東)

林 メー

(富東)

▽3位決定戦

楠 メー

▽決勝

林 コメー

◆第1回高齢者剣道大会 (11月16日徳武)

▽70歳以上 ①清原栄(阿南)

②中川虎雄(徳島) ③平岡竹雄

(日和佐) 蝦名久作(小松島)

▽65~69歳 ①山田富雄(鳴門)

②西野四郎(徳島) ③兼田繁(鳴門)

門)勝浦守(徳島) ▽60~64歳

①吉田租(鷲敷) ②高田豊(藍住)

③平尾勝美(鳴島) 遠藤一美(阿南)

◆48国体強化練成女子剣道大会 (12月21日徳武)

「阿讃国体」へ選手強化を目指す

県剣道連盟主催の小学校四、五年生

を対象とした48国体強化練成剣道大

会が二十一日、県武道館で四年生五

十一人、五年生六十四人が参加して

行われ、四年生・大城照美、五年生

・大城夏子といずれも北川小勢が優

勝した。

成績次の通り

▽四年生 ①大城照美(北川)

②前浦幸代(北川) ③中田有美

(北川) 株田千晴(木頭)

▽五年生 ①大城夏子(北川)

②前浦志津代(北川) ③森ひろみ

(小松島) ③佐野由佳(北井上)

◆第31回県下高校剣道新人大会 (1月18日徳農)

【男子】

▽1回戦 城南4-1新野、城ノ内

3-2城東、池田3-2日和佐、城

北3-2穴喰商、生光3-2海南、

川島5-0穴吹、市立3-1水産、

徳農4-1徳工、阿工4-1富東、

小松島5-0東工、富西5-0徳商

▽2回戦 脇町4-1城南、城ノ内

3-1池田、那賀4-1城北、鳴工

5-0生光、川島4-1阿波、徳農

4-1市立、小松島4-1阿工、富

西5-0板野 ▽準々決勝 脇町4

1-1城ノ内、那賀4-1鳴工、川島

3-1徳農、富西3-2小松島

▽準決勝

那 賀 2-2 脇 町

(代表決定戦)

富 西 3-2 川 島

▽3位決定戦

川 島 4-1 脇 町

▽決勝

富 西 3-1 那 賀

○福 井 メメー 西 浦

○福 多 コメー 下 司

○島 田 ーメコ 岡 田

○富 沢 ココーメ 本 田

湯 浅 引き分け 船 田

▽1回戦 富東5-0美商、日和佐
4-0城東、富西5-0穴喰商
▽2回戦 富東4-0城ノ内、川島

4-1徳商、脇町5-0辻、城南5

1-0池田、日和佐4-1小松島、生

光3-2城北、新野3-2市立、富

西(棄権)徳工 ▽準々決勝 富東

4-0川島、脇町3-2城南、生光

3-2日和佐、富西3-2新野

▽準決勝

富 東 5-0 脇 町

富 西 3-2 生 光

▽3位決定戦

脇 町 3-2 生 光

▽決勝

富 東 4-1 富 西

○折 上 コー 北 田

○西 岡 ード 松 本

○河 野 コメー 松 江

○楠 コメー 米 田

○林 ドメー 張 間

◆第10回県下中学校剣道新人大会 (1月25日徳武)

【男子】

▽1回戦 松茂3-0川内、海南3

1-1津田、富田2-0阿南一、高浦

2-0加茂谷、鳴門2-3-1坂野、

池田3-2城東、応神2(本数勝ち)

2平谷、附属3-0貞光、阿南2-5

1-0立江、北島3-1国府、石井3

1-1南部、江原1(本数勝ち) 1文
理、徳島5-0藍住、牟岐3-2加

茂名、新野 4 - 0 入田、小松島 2 -

1 大麻、穴吹 3 - 0 板野、羽浦 4 -

1 脇町、城西 2 - 1 日和佐、池田 1

2 - 1 上八万 ▽2 回戦 阿波 3 -

1 松茂、海南 4 - 1 富田、高浦 2 -

1 八万、鷺敷 3 - 1 鳴門二、鴨島 1

5 - 0 池田、山川 4 - 1 応神、阿南

2 - 1 附属、木頭 3 - 2 北島、宮

浜 4 - 1 石井、徳島 4 - 1 江原、鳴

門 3 - 2 牟岐、市場 2 (代表戦勝

ち) 2 新野、那賀川 4 - 0 小松島、

阿南 3 - 0 穴吹、羽浦 3 - 2 城西、

相生 3 - 0 池田 1 ▽3 回戦 阿波

3 - 2 海南、鷺敷 4 - 1 高浦、鴨島

1 - 5 - 0 山川、木頭 4 - 0 阿南二、

宮浜 4 - 1 徳島、市場 3 - 1 鳴門一、

那賀川 2 - 0 阿南、相生 3 - 0 羽浦

▽準々決勝 阿波 3 - 1 鷺敷、木頭

3 - 2 鴨島一、宮浜 3 - 2 市場、相

生 4 - 1 那賀川

▽準決勝

木頭 2 - 2 阿波

(本数勝ち)

宮浜 2 - 0 相生

▽決勝

木頭 4 - 1 宮浜

○松岡 メメー 橋本

○中野 メコー 前田

田中 コー ド 昇 ○

○照原 ココー コ 近藤

○谷沢 ドー 山川

【女子】

▽1 回戦 附属 3 - 2 池田一、日和

佐 4 - 1 脇町、阿南 1 - 4 - 1 鴨島一、

加茂名 4 - 1 板野、海南 2 (本数勝

ち) 2 入田、富田 2 - 1 阿南、加茂

谷 2 - 1 城西、市場 5 - 0 川内、上

八万 2 (本数勝ち) 2 小松島、穴吹

4 - 0 勝浦、羽浦 3 - 0 城東 ▽2

回戦 木頭 4 - 1 南部、日和佐 3 -

0 附属、阿南 1 - 3 - 0 加茂谷、那賀

川 2 (本数勝ち) 2 海南、山川 2 -

1 富田、市場 3 - 1 加茂谷、上八万

2 (代表戦勝ち) 2 穴吹、阿波 3 -

1 羽浦 ▽準々決勝 木頭 3 - 2 日

和佐、那賀川 3 - 2 阿南一、山川 3

- 2 市場、阿波 4 - 0 上八万

▽準決勝

木頭 3 - 1 那賀川

阿波 4 - 1 山川

▽決勝

阿波 3 - 2 木頭

岩本 コー メ 小藪香 ○

○吉村 ドコー メ 前浦

○福原 不戦勝ち

○中野 コー コ 小藪美 ○

○米倉 メー 谷

【県外】

◆第34回全日本都道府県対抗剣道大会 (5月3日大阪)

▽1 回戦 徳島 4 - 1 長野

▽2 回戦 北海道 3 - 2 徳島

◆第25回全日本女子剣道選手権大会 (5月3日大阪)

▽1 回戦

寺西 メー 堀田

(徳島) (石川)

▽2 回戦

村上 メドー メ 寺西

(秋田)

◆四国管内矯正職員武道大会 (5月15日高知)

①高知 ②高松 ③松山 ④徳島

《敢闘賞》

徳島刑務所 杉本 守

◆第38回四国四県剣道大会 (5月25日高知)

徳島 4 - 3 高知

澤辺 メー メ 門田

手塚 コー 川添

吉田 コー 塗本

青木 メー メ 上田

米倉 メドー 石川

吉田 コー コ 本間

那倉 コー コ 岩崎

柏木 コー コ 岡本

川田 コー コ 橋本

坂下 コー コ 山本

大沢 コー コ 寺田

勝沼 コー コ 河野

西野 コー コ 川田

香川 6 - 5 徳島

亀井 コー コ 澤辺

村上 メー メ 手塚

村上 メー メ 吉田

真鍋 反 コー コ 青木

三浦 コー コ 米倉

白石 ツー コー コ 吉田

三原 メドー コー コ 米倉

北条 メドー コー コ 那倉

大西 コー コ 柏原

坂口 コー コ 川田

坂野 コー コ 坂下

矢野 コー コ 大沢

高橋 コー コ 勝沼

上杉 メコー コー コ 西野

徳島 7 - 3 愛媛

澤辺 コー コ 竹田

手塚 コー コ 別府

吉田 メー メ 芝

青木 メー メ 若松

米倉 コー コ 宮脇

吉田 一メメ 桜木

那倉 メーメ 佐伯

柏原 ツメー 大久保

川田 ココー 戸梶

坂下 ーメメ 加茂

大沢 コメー 小川

勝沼 ー 金澤

西野 ーメメ 矢野

①香川 ②徳島 ③高知 ④愛媛

◆全国警察剣道選手権大会

(5月30日東京)

▽予選リーグ

近 藤 メメー ド山 口

(徳島) (栃木)

近 藤 コーメ 芦 塚

(長崎)

近 藤 コメー コ工 藤

(滋賀)

▽決勝トーナメント1回戦

近 藤 コメー 佐 藤

(秋田)

▽2回戦

近 藤 コメー 大城 戸

(愛媛)

▽準決勝

上 野 メー 近 藤

(埼玉)

◆四国高校剣道選手権

(6月21・22日香川)

第1日目

【男子団体】

▽予選リーグA組 川島3ー2高知

工、琴平4ー1松山商、高知工4ー

1松山商、琴平4ー0川島 ▽B組

高知3ー1富東、松山北4ー1高松

西、高松西3ー2富東、松山北2ー

2高知(本数勝ち) ▽C組 八幡浜

2ー2志度商(本数勝ち)、土佐3

ー1那賀、八幡浜4ー1土佐、志度

商3ー2那賀 ▽D組 三本松3ー

2宇和島東、阿工3ー2明德義塾、

三本松4ー0阿工、明德義塾5ー0

宇和島東 各組とも予選リーグ3回戦のうち

2回戦まで終了。

【男子個人】

▽準々決勝

小笠原 メメー 福 井

(富西)

▽決勝

小笠原 メメー 山 内

(琴平)

【女子団体】

▽予選リーグA組 富西3ー2高松

商、済美5ー0中村、中村4ー1高

松商、済美4ー1富西 ▽B組 高

松3ー2川島、土佐女子4ー0松山

西、川島3ー2松山西、土佐女子3

ー2高松 ▽C組 高知学芸2ー0

新居浜東、高松南4ー1富東、高知

学芸2ー2高松南(引き分け)、富

東5ー0新居浜東 ▽D組 宇和島

東3ー2大柵、高松一5ー0新野、

宇和島東3ー2新野、高松一3ー2

大柵 各組とも予選リーグ3回戦のうち

2回戦まで終了。

【女子個人】

▽決勝

谷 口 下 ー 及 川

(松山西) (済美)

第2日目

【男子団体】

▽予選リーグA組 松山商3ー2川

島、琴平4ー1高知工 ▽順位 ①

琴平3勝 ②高知工1勝2敗 ③川

島1勝2敗 ④松山商1勝2敗(2

々4位は本数勝ち)

▽B組 高知3ー2高松西、松山北

2ー2富岡東(松山北の本数勝ち)

▽順位 松山北3勝 ②高知2勝1

敗 ③高松西1勝2敗 ④富東3敗

▽C組 志度商4ー1土佐、那賀3

ー2八幡浜 ▽順位 ①志度商2勝

1敗 ②八幡浜2勝1敗 ③那賀1

勝2敗 ④土佐1勝2敗(1、2位

と3、4位は勝者数による)

▽D組 宇和島東3ー2阿工、明德

義塾3ー2三本松 ▽順位 ①明德

義塾2勝1敗 ②三本松2勝1敗

③宇和島東1勝2敗 ④阿工1勝2

敗(1、2位は勝者数、3、4位は

本数による)

▽決勝トーナメント準決勝

琴 平 5ー0 松 山 北

志 度 商 3ー1 明 德 義 塾

▽決勝

志 度 商 4ー1 琴 平

志度商は十五年ぶり二度目の優勝。

【女子団体】

▽予選リーグA組 中村3ー2富西、

済美4ー1高松商 ▽順位 ①済美

3勝 ②中村2勝1敗 ③富西1勝

2敗 ④高松商3敗

▽B組 高松4ー1松山西、土佐女

子3ー1川島 ▽順位 ①土佐女子3

勝 ②高松2勝1敗 ③川島1勝2

敗 ④松山西3敗

▽C組 高松南3ー2新居浜東、富

東4ー1高知学芸 ▽順位 ①高松

南2勝1分け ②富東2勝1敗 ③

高知学芸1勝1分け1敗 ④新居浜

東3敗

▽D組 大柄3-2新野、宇和島東

3-2高松一▽順位 ①宇和島東

3勝 ②高松一2勝1敗 ③大柄1

勝2敗 ④新野3敗

▽決勝トーナメント準決勝

土佐女子 3-2 済美

高松南 2-2 宇和島東

(高松南の本数勝ち)

▽決勝 勝

高松南 3-2 土佐女子

高松南は十二年ぶり三度目の優勝。

◆第2回大分居合道大会

(7月14日大分)

▽1回戦 徳島4-3熊本A

▽2回戦 徳島7-0宮崎

▽3回戦 大分4-3徳島

◆第34回全国高等学校剣道大会

(8月2-4日山口)

【男子団体】

▽予選リーグ

前橋商 5-0 那賀

(群馬) (徳島)

○金井初コド 入江②

○栗原初メ 小川②

○中初ドコ 山川②

○中島初メコ 船田②

○鈴木初コメ 中本②

桜丘 4-1 那賀

(愛知) (徳島)

○小田②ドメ 入江②

大森② 小川②

○鈴木②メ 山川②

○伊藤②メ反 船田②

○菊池②メメ 中本②

(那賀は2敗で予選落ち)

【女子団体】

▽1回戦

PL学園 5-0 富東

(大阪) (徳島)

○長野②メメ 林初

○山本②メメ 河野初

○山形②メ 谷②

○川俣②メメ 藤井②

○緒方②コメ 国見②

【女子個人】

▽1回戦

有馬②メメ 国見②

鹿児島 徳島

串木野女 富岡東

井川②メド 林初

鹿児島 徳島

串木野女 富岡東

◆第28回全国教職員剣道大会

(8月9日岐阜)

▽1回戦

大分 徳島

坂本メ 福多

近藤 村井

竹中コメ 中山

鈴木 西谷

古澤 沢井

▽代表決定戦

○坂本コメ 福多

▽小学校の部

淵田メメ 芝原

(熊本)

▽中学校の部

○1回戦 深瀬

榎本メコメ 瀨

○2回戦 (和歌山)

榎本コドメ 近藤

(大分)

○3回戦

大向メ 榎本

(岩手)

▽高・大・教委の部

○1回戦

大石メ 佐見津

(兵庫)

○2回戦

大石コメ 福嶋

(静岡)

○3回戦

大石コメ 福嶋

大石メ 梅澤

(鹿児島)

○4回戦

吉田コメ 大石

(東京)

▽女子の部

○2回戦

寺西コメ 高橋

(三重)

○3回戦

寺西コメ 粕田

(茨城)

○4回戦

村上メコメ 寺西

徳島6-2香川

田村 香西

佐々木 松原

福多 氏家

柴田 大林

中山 村上

加藤 西山

大石 藤井勝

坂本 国重

榎本 藤井正

高島 大西

沢井 本田

高知 8-1 徳島

中島 コー | 田村
久保 メー | 佐々木
西村卓 | 福多
吉田 メー | 柴田
藤原 コー | 中山
下坂 | コメ | 加藤
森下 メー | 大石
西村大 メー | 坂本
中野 | 榎本
公文 メー | 高島
三谷 コー | 沢井

愛媛 4-4 徳島

芝 | コー | 田村
近藤寛 | メー | ドコ | 佐々木
菅 | | | 福多
二宮 | メー | コ | 柴田
信尾 | | | コメ | 中山
木原 | ドメ | | | 加藤
渡部 | ド | | | 大石
俊野 | | | | 坂本
桜木 | メー | | | 榎本
戸梶 | | | | 高島
近藤克 | | | | 沢井

【男子団体】

▽予選E組

宮 浜 2-2 土々呂
(徳島) (宮崎)
宮 浜 4-1 大和
(宮浜はトーナメント進出) (岐阜)
▽1回戦
宮 浜 3-1 水海道西
○藤田 コー | 本田 (茨城)
谷口 | 引き分け | 平賀
前田 | | | 石塚
○近藤 | ドド | 鈴木
○小川 | メー | 深沢
▽準々決勝
北茂安 3-2 宮浜
(佐賀)
○北原 | メー | 藤田
田原 | | | 谷口
○中尾 | ドメ | 前田
石井 | メー | ドメ | 近藤
○黒田 | ド | | 小川
▽予選B組
那賀川 2-2 上郡
(徳島) 引き分け (兵庫)
那賀川 2-1 平田
(那賀川は決勝トーナメント進出) (島根)

▽1回戦

柏 5-0 那賀川
(千葉)
○坂本 | メー | 吉岡久
○藤田 | ドド | 鈴木
○山崎 | メド | 田上
○花島 | メメ | 吉岡路
○後藤 | ドメ | 福住

◆第41回国体剣道競技

(10月13・14・15日 山梨)

【少年】

▽1回戦
山梨 5-0 徳島
○関野 | ② | コー | 岡山
○三神 | ② | コー | 長尾
○橋本 | ② | ドド | 宮田
○萩原 | ③ | ドド | 山川
○原 | ③ | メー | 小川

【成年】

▽1回戦
徳島 4-1 滋賀
○平野 | ④ | コド | 碓井
○近藤 | ⑥ | ドメ | 重松
美馬 | ⑤ | メー | 手塚
○柏原 | ⑥ | メー | 幡川
○大沢 | ⑦ | コー | 柳
▽2回戦
徳島 3-2 大分

○平野 | ④ | コー | 渡辺
○近藤 | ⑥ | コー | 平地
美馬 | ⑤ | コー | 江口
柏原 | ⑥ | | | 青木
○大沢 | ⑦ | | | 成田
▽3回戦
鳥取 3-2 徳島
谷村 | ⑤ | | | 平野
○山中 | ⑤ | メー | 近藤
○木下 | ⑦ | | | 美馬
○生住 | ⑦ | | | 柏原
香田 | ⑦ | コー | 大沢
▽決勝
山梨 3-0 兵庫

◆第21回全日本居合道大会

(10月26日 新潟)

▽五段の部
1回戦 森田 | 1名 | 良
(徳島) (鳥取)
2回戦 古山 | 1名 | 田
(岐阜)
▽六段の部
1回戦 本田 | 1名 | 橋
(広島) (徳島)
▽七段の部
1回戦 原田 | 1名 | 沢
(徳島) (秋田)
2回戦 原田 | 1名 | 瀬
(福岡)

◆第16回全国中学校選抜剣道大会

(8月25日 茨城)

①高知 ②徳島 ③香川 ④愛媛

3 回戦 原 田 | 西 平
(沖繩)

▽準々決勝
佐 藤 | 原 田
(岡山)

◆第3回全国剣道連盟対抗剣道優勝大会
(11月23日 愛知)

▽1回戦 徳島 3 | 1 兵庫
▽2回戦 愛知 3 | 2 徳島

◆四国矯正管区新人武道大会

(10月30日 高松)

▽団体リーグ戦

①高知刑務所3勝1敗 徳島刑務所3勝1敗
③松山刑務所3勝1敗
④高松刑務所1勝3敗 ⑤少年施設連合4敗1 | 3位は内容による。
▽個人戦敢闘賞 高田 匠(徳刑)

◆第34回全日本剣道選手権大会

(11月3日 東京)

▽1回戦

米 倉⑥ ツ | 田 村⑥
(徳島県警) (警視庁)
▽2回戦
権 瓶⑥ メ | 米 倉⑥
(新潟・明訓高教)

◆全国警察剣道大会

(11月5日 東京)

▽1回戦

神奈川 5 | 2 徳 島



山梨県富士吉田市国体室

△アンケート特集▽

あなたのめざす剣道は

「何事も休まずにつづける事が、すばらしい。」と先生をしているお父さんが教えてくれます。ぼくは剣道を始めて四年たちましたが、なかなかじょうずになりません。でも二年間、つづけて、かいきん賞をもらいました。学校を休んだのも四年間で一日だけです。それも剣道をしていただけだと、思います。お父さんは、毎日剣道を休みません。ぼくのめざす剣道は、お父さんのようになる事です。

(来代誠仁・10歳・四級・芝生小学校)

私がめざす剣道は

今私がめざす剣道は、ただ強くなることよりも、先生達が、私に教えて下さった正しい基本わざをしっかり身につけることだと思っています。大人になっても、ずっと剣道をつづけ先生達が私に教えてくれたのと同じように、後はい達に剣道を教えられるようになります。そして先生達のお手伝いをさせてもらうのが、私の一番大きな、ゆめです。

(宗本千絵・12歳・二級・山瀬小学校)

ぼくは、先生から剣道をする目的は、(一)心をみがくこと、(二)身体を練りきたえること、(三)技術を修得すること、(四)礼儀を正しくすることと教えられいっしょうけんめいがんばっています。だからぼくは、精神と身体をきたえ、とくに強くなることを目指してがんばっています。強くになりたいです。

(天羽洋仁・12歳・一級・大野小学校・六年)

三年生の夏から剣道を始めて、もう三年になるのに私は、試合に出ても、負けることがほとんどだし、試験を受けに行っても、なかなか合格しないことがたくさんあります。でも、中学生になっても、高校生になっても、この剣道をやめないようにして、今はあまり強くはありませんが、これからどんどん、一生けん命に練習して、国体に出場できるぐらい強くなりたいです。

(森幸子・12歳・2級・横瀬小学校)

ぼくのめざしている剣道とは、試合の時の優勝や、級位を取得するだけではありません。もちろん優勝や、級位が上がる事はうれしいものです。でも、ぼくは心や体をきたえる事が何よりも良い事だと思っています。いくら優勝しても、悪の心が働いたり健康を害したりしては、何にもなりません。剣道を学ぶ事によって心身を錬磨し、将来人から後ろ指をさされない人間になりたいと思っています。

(栗城達吉・12歳・一級・横瀬小学校)

ぼくのめざす剣道は

ぼくは、父にすすめられ、幼稚園の時から七年間剣道をしてきました。ぼくの先輩に、今、国際武道大学に行っている人がいます。その人は、国体にも出場しています。ぼくの夢は、その先輩のように、剣道をずっと続け、いろいろな大会に出たいのです。そして大人になってもぼくが教えられたように、いろいろな子供たちに剣道を教えたいのです。これがぼくのめざす剣道です。

(住友正行・12歳・二級・山瀬小学校)

ぼくは、六年間たくさんのお話を聞いてきた。だいじなことは、「剣道は、礼に始まり礼に終わる」と先生に、何回も言われてきた。心と技を修練したり、気力、技、姿勢、つまり「気、剣、体」が、一致しなければいけないことなどを身につけて、めざす目標は、強くなることへと、かえていきます。

(笹山英紀・12歳・松茂小学校)

小学校二年生から今まで剣道を習ってきて、楽しいことも色々ありました
が苦しいこともありました。真夏の上用げいの汗だらけのあつき、試合前
の五時半に起きての強化練習などです。

僕たち北島剣道教室の道場訓の中に忍耐という言葉があります。僕はその
言葉が大好きです。でもあと少しでこの思い出多い道場を後に中学に進みま
す。中学生になっても忍耐の心を忘れず練習にはげみます。

(松岡篤志・12歳・二級・北島北小学校)

私のめざす剣道

私は、小学校二年生の時母にすすめられて剣道を始めました。自分で選ん
だ剣道ではないけど、私のためになりました。それは、寒い時でもがまん出
来る事、礼儀を教えられたり、遠せいで試合で上手な人の試合が見れた事です。

後、二カ月ぐらいで六年生も終わりますが、今までに負けてこうかいした
事がたくさんあります。まだ、小学校で一、二回試合があると思うけど、こ
うかいのない試合をしようと思います。

(佐光加容子・12歳・三級・林小学校)

僕が剣道習い始めて、今年で八年日になりました。始めた動機は、剣道着
姿の友達を見て、「格好いいなあ。」と思い、両親に頼み、さっそく道場に
連れて行って貰いました。苦しかった事辛かった事が多かったが、今迄続け
てこれたのも、ご指導下さった先生方のおかげだと感謝の気持ちでいっぱい
です。今のこの気持を大切にこれからも立派な人になれる様、一生懸命努力し
生涯剣道を続けて行こうと思っています。

(佐藤一心・12歳・一級・鳴門市第一小学校)

私のめざす剣道は、みんなで力をあわせて男女関係なくがんばることです。
そして、私のめざしている剣道は、試合だけ強いのではなく、練習にもき
びきびした行動をとること、そして、「剣道をしている子はやはり、りっぱ
だな。」と言われるような人になりたいです。

そして、そのきびんさを、生活にいかしてきびきびした行動をとりたいで

す。

私も卒業が近く、5年生たちにも私のめざしている剣道を実行してもらっ
て強くなってほしいと私は思っています。

(阿部由紀子・12歳・大俣小学校)

体が弱くてはじめた剣道も、早、小学校最後の年になりました。中学生に
なったら、よりいっそうに練習がきびしくなるけどへこたれずにがんばろう
と思います。僕は、剣道を通じてたくさんのよい友達ができた事や、身体が
丈夫になってきたことが、とてもうれしく思います。中学生になっても、こ
の経験を忘れずに、世の中で役に立つ人間をめざして、剣道を続けていこう
と思います。

(黄田光弘・12歳・二級・林小学校)

中学に入学して、初めて部活として剣道を始めた。まだまだ無我夢中で、
一日も早く上達したいと思っていた。そんな中で、礼儀の大切さを一番に学
んだ。朝の「おはよう」の一言でも、大きな声で心の底から言うと、それだ
けでとてもすがすがしい気持ちになる。剣道から学びとるものは、まだまだ
あるであろう。どんなことでもどん欲に、自分の身につけていきたい。

(清香織・12歳・附属中学校)

あなたのめざす剣道は

ぼくのめざしている剣道は、『健全なる精神は、健全なる肉体に、宿る』
という言葉どおりに、心身をきたえて、集中力もつけてがんばっていきたく
いと思っています。もし、あきらめそうになったとしても、くじけず努力して
いこうと思います。目標を達成していくようにがんばりたいです。

(北川剛・14歳・初段・鴨島第一中学校)

これからのぼくの剣道の目標は、勝ち負けにはあまりこだわらず小手先だ
けの小さな剣道ではなく大きくのびのびしたごうかいな剣道をするのが目標
です。打突でも腰が安定し、今よりももっと強くて速い面が打てるようにな

りたいです。これらのことを目標において毎日の練習にとり組みたいと思います。

(吉田幸司・14歳・初段・阿波中学校)

あなたのめざす剣道は

私のめざす剣道は、すぐに実行のできる剣道にしたいと思います。例にあげると、試合が終わって、次の日に、自分で、反省をして、すぐに、自分のくせを直したいと思うけれど、なかなか、直せません。そうするには、実行するのが、一番だと思いました。これから、自分だけでなく、みんなががんばっていききたいです。

(小田悦子・14歳・初段・鴨島第一中学校)

ぼくの目指している剣道

ぼくの目指している剣道は、気魄、技、体力で相手を打ち負かす剣道です。ぼくは、試合でよく迷いがあって負けてしまうことがあります。

しかし、教えてもらっている先生方の試合は、燃える様な気魄が飛び合い、相手の気隙があればそこを打ち込んで試合で数々の良い成績を残しています。ぼくも早くこの先生方の様に気を鍛えあげて、目指しているものが早く目の前に現れる様に努力していこうと思います。

(河野充宏・14歳・一級・市場中学校)

私は、何事も続けると言う事が大切だと思う。そこに私のめざす剣道はあります。今まで剣道をやっていて、本当によかったと思ってたのは数少ないと思います。むしろ、やめたいと思う方が多いと思います。けれど、私は剣道のできるかぎり、続けたいと思っています。それは、ここまで来たのだから、自分をこえられるようにしたいからです。最後には、本当にやって良かったと、心残りにならないような剣道を、していきたいと思っています。

(福住朋子・14歳・初段・那賀川中学校)

私は、剣道をしているいろいろ学びました。中尾先生といっしょに剣道をし、

うれしかったことや悲しかったこと苦しかったこと数えきれないほどありました。また他の学校の選手と技をみがきあったこと、たくさんの試合で優勝し涙を流したことなどたくさん学びがなばってきました。今年は、夏の総体で優勝し全国大会に出場することが目標です。そのためにも全国で通用する正しい剣道することを第一に心がけていききたいと思っています。

(米倉史・14歳・初段・阿波中学校)

私の目指す剣道は勝敗結果にこだわらず自分らしい剣道をすることです。私にとって自分らしい剣道というのは試合の時でも日頃の練習と変わらない心態度技で相手に対するということです。しかし私はまだ自分らしい剣道を正確につかめていません。普段の練習では仲間がいて指導者がいます。当然上手な人もいれば下手な人もいます。同じ道場に学ぶ仲間先輩先生からいろんな影響を受けて良い面を数多く学び身体的な面精神的な面の両方にわたって自分の欠点を直していこうと思っています。

(小藪美鈴・14歳・一級・木頭中学校)

私が、中学校へ入学して剣道をはじめたのは、一番に姉の影響だったと思います。姉は、現在も高校で剣道をしています。私はつづけることができません。それは、中学二年生の冬に足を痛めてしまい、三年の夏まで続けるのが精いっぱいだったからです。でも、これから剣道をつづけられないからといって今まで自分が得たものがなくなるわけではありません。三年間剣道をとおして、身につけたものはこれからの生活に、活用させていきたいと思っています。

(秋田真由美・15歳・初段・阿南第一中学校)

私は、剣道をやっているからには一生懸命やって、強くなって試合でも勝ちたいと思う。でも、私のめざす剣道というのはそれだけではない。何事も負けられない強い心と、人間としてより大きくなるというところに、私のめざす剣道がある。

(尾形美樹・16歳・二段・徳島市立高校)

大学に入学して、初めて剣道というものに出会ってから、二年の月日が経とうとしています。まだまだ技術的な面でどうこう言えるような状態ではないので、まず、基本に忠実に、そして、精神面を鍛えて落ち着きのある剣道をめざしたいと思います。

(中本亜希子・20歳・初段・徳島大学)

私のめざす剣道は、今、子供と一緒にやっていますけど、子供に、教えるのではなく子供から学ぶんだと言う心で、これからもやって行きたいと思っています。

自分の体を鍛え心を鍛え、だれにも負けない剣道をめざすのではなく、自分に負けない剣道をめざして行きます。

(山下賢治・22歳・初段・四国建工)

まず、私の理想の女性像に触れますと、大岡越前の妻雲絵の様な女性です。私のめざす剣道は、そういう女性々を追いかける延長でありたいと思います。男性が武士を理想として剣の道に励まれる様に、女性にとっても(たとえ一生続けられなくても)剣道は各々の理想に近づく一歩になり得ると思います。

故下村先生が、現代の武士であられた事を常に想いながら、私も剣道の稽古に励みたいと思います。

(森田美佐・23歳・三段・徳大医学部四年)

正直なところ、自分の目指している剣道はこれですと、人に言える確かなものはまだありません。ただ、生涯剣道を通じて行きたいと思っっているのです。今は目先の勝負に拘泥わず何時か自分のためになるものを少しずつ探して行きたいと思います。

何時の日か、剣道を通して、充実した人生であったと言える様に頑張りたいと思います。

(曾根徳治・23歳・四段・教員)

今の私のめざす剣道は、指導者としての剣道です。以前私は、「剣道ってこんなに楽しいのか!」と実感したことがあります。大学四年のインカレ間近でしたが、体も心も絶好調で、勝ち負けを全く意識せず、ただ相手の動きに応じ自然に体が動き出し打っているのです。学生時代の「勝つため」の剣道を経て、今は次の世代が、剣道が楽しい、と思えるように、良き指導者として精進しなくてはならないと思っています。

(澤辺弘美・23歳・三段・小松島中学校講師)

剣道を始めから今年で早十五年になろうとしています。最近になってようやく剣道というものがわかり始めたところです。「私のめざす剣道」という具体的なものはありませんが、今までは、なり振りかまわずただ試合に勝つことだけを考えて稽古してきたので、これからは、剣道の理念にかなった剣道をするように心掛け、特に精神的訓練をやっていきたいと思います。

(吉田博文・24歳・四段・徳島県警察本部警備部機動隊)

私が剣道を始め、十四年が過ぎようとしています。小学校、中学校、高等学校、大学と、常に試合が多かったためか、試合中心に練習していたように思います。つまり、スポ：ツとして競技としてやってきたようです。これまでは、それでよかったのかもしれない。しかし、これからは指導者として、精神的な要素も欠かすことはできないと思います。「力」ではなく「業」の剣道を目指したいと思っています。

(上田宏司・24歳・四段・新野高校・富岡東高校)

剣道の究極の目的は人間形成ということですが、それに至るまでには何らかの過程があるはずです。私は今、機動隊で剣道の修業をしています。そこで要求されるのは何とんでも強い剣道です。私は性格的に少しおとなしい方なので、そういう面で損をしているとよく言われます。現在、私は「いかにして力強い剣道を身につけるか」これに的を絞っています。そして、そのための創意工夫を怠らないことに心がけています。

(青木博志・25歳・四段・徳島県警機動隊)

一期一会の剣道

剣道は、他のスポーツと違って、「道」という字がついている。道であるからこそ、振り返ることなくすこしでも、前に進みたい。

その為には、試合のときはもちろんのこと、日頃の稽古のときでも、緊張感を持ち、一分一秒を大切に剣道を心がけたい。この一瞬という時間は二度とないのだから。そうすることによって自然と、理のこなった攻めてから打つ、勝ってから打つことができると思う。

そして、「剣道」と「人生」は、どこか似ていると思う。剣道をすることによって人生が、人生を大切に生きることによって剣道が、充実できるようになりたい。自分にとって、剣道も人生もめざすものは、同じような気がする。緊張感を持ち、理合大切にすることを、めざしていきたい。

それは、二度とないこの瞬間を大切にすること、めざすのと同じではないだろうか。

(桑原正臣・25歳・四段・総合警備保障)

まず、生き方も、打ちも、こだわりなくシンプルにすること。煩惱を排し、勝ちもなく、負けもない心で勝負する。

強い攻めにも、恐がらず、色にも踊らず、こだわりなくスルリと入り面を打つ。そんな面を打ちたいと考え続ける修業体であること。

(富浦廣志・26歳・五段・木頭中)

私は、最近、数年日にして再び剣道をやり始め、二年前の藍住の大会では多くの主婦の方が参加されているのには驚かされ、改めて剣道の素晴らしさを感じました。下手でもいいから、生涯持続できる剣道を目指したいと思えます。面をとった時の何とも言えないすがすがしさは、仕事の疲れや悩みを吹き飛ばしてくれ、自己に挑戦していく勇気を与えてくれます。これからも一回でも多く練習がしたい。

(田中美智代・28歳・主婦)

私は、小学生の指導者としての立場にあります。子ども達の生活を見てい

ると、耐えること、がまんすることの場面が少ないように思います。そこで、毎日の練習から、弱い自分の心に打ち克ち、「なにくそ」と自分の気持ち奮い立たせて立ち向かう強い精神力を養うことをめざしています。そして、子ども達が、生涯を通じて剣道とかかわれることを念願して、日々の指導にあたっています。

(吉成高志・30歳・三段・北川小学校教諭)

私は、少年剣道クラブの監督をしています。

子供達と練習をしていると、子供ってスバラシイと思います。下手な私の指導以上に、子供達は私に色々なスバラシイことをおしえてくれます。それは子供達の純粋な心からでてくるものだと思います。剣道を通し、子供達と心と心でつながれ、一つのスバラシイクラブが出来るように頑張ります。

(飯沼一日・32歳・三段・精肉店自営)

私は、年齢と共に理合のこなった気品、気位の備わった剣道をめざしたいと思えます。少年剣士達を指導するに於ても、試合志向型にならない様、ただ勝てばいいのでなく、勝利を得る前に剣道修業の最も大切な礼儀や躰を教え、人間形成に務めたいと思えます。また、私に指導して下さる先生の教えを正しく受け継ぎ、忠実に身に付け修練し、次代に手渡す努力をすると共に、地域の子供達の健全育成に少しでも役立てる様がんばりたいと思っております。

(松村和宏・34歳・五段・自営)

あまりにも未熟者であり、剣道を始めて月日も浅く、めざす剣道の問いに答えるだけの理念がありません。

的はずれで恐縮ですが、剣道を始めた動機は、練習を通し、心身ともに健康に過ごすことができ、礼を欠かない人生が送れたらと、また長女も剣道を習っていますが、一緒にやることにより何かと話ができるのではないかと思っています。剣道を始めた次第です。

(浜 浩治・34歳・一級・由岐町役場)

剣道は一对一の格技ですから、競技中はだれも頼ることができません。したがって自分自身の集中力や決断力によって相手の気持ちを観察し、行動しなければなりません。したがって私は相手を尊重するとともに、気力精神面を磨くことを主たる目的として稽古に励んでいます。技術面においては、メートル八十五センチという長身を利した面技を主とした攻めの剣道を目的としています。

(平田憲四郎・35歳・四段・角元産業㈱)

長男に、礼儀正しく丈夫な身体と根性が出来ればと剣道をすすめてから、世代を越え、広い心かつ深い考えの人に接する事ができ、「人のふり見てわがふりなおせ」で、私も昨年かから習い始め、ついに主人も一緒に始めました。四歳の二男も私達の横に並んで素振りのまねごと。私の夢は、一家四人が剣道を通じて、一緒に喜び合い、励まし合いながら、より人間らしく生きたいと思います。

(和泉育代・36歳・初段・海部郡農協)

入っては打たれ、引いては打たれる。「あっ」と思う間もなく、見事に打たれている。なぜ、打たれたのか、どのようにして打たれたのか分からない。さりとして、がむしゃらに打っていつては息が続かず、かすりもしない。

丹生谷で教員をするのだからと、軽い気持ちで始めた剣道も早、十数年。齢相応の剣道に励まねばと心苦しく思い始めたこの頃である。

(岸 秀樹・37歳・四段・宮浜中学校)

刀(竹刀)には、自然の流れというか、法があるように感じる。身体のさばきや気持ち(精神)面で不十分な私だが、竹刀を振りきり、動ききり、気合いの入った、ふっきれた稽古をして、剣の理法を体得したいと思っています。

(野村幸大・40歳・五段・相生中教員)

自分に勝つための剣道をめざしたいと思っています。何故かと言えば、不定愁訴に悩まされているので、体調の良い日は、一か月のうち十五日です。そ

れ故、体調の悪い時には剣道することにより、病魔に勝ちたいと祈り続けております。最初の頃は道場に行くとお腹痛を訴えていましたが、最近はどういうことがなくなったのかと気が付きました。精神を鍛え、どこまで回復するか挑戦したいと思います。

(島本智子・40歳・二段)

私自身の人生哲学の盾として、国際的な視点の中で、目標をもち、もの見方、考え方、仕事に向かう眼を養い、価値判断のできる自己をつくることにあります。

剣道とは、人の道であり、「須臾も離るべからず」で、道を離れて我がなく、我を離れた道はないと考えます。

常に自分の言葉と行動に自信をもち、確実に、ねばり強い人間形成が私のめざすところです。

(原田 進・41歳・四段・松茂町役場)

剣道を始め、三年半、剣道はまだ未熟ではありますが、病弱だった身体が丈夫になり、主人や息子と心をつにして、ぶつかり合い、稽古できることをこの上ない喜びと感じ乍ら、「力強く美しい剣道」を目標に練習に励んでおります。更に、近い将来、訪れんとする更年期を、剣道で鍛えた肉体と精神力で乗り切る為、尚一層、精進して行きたいと思えます。

(川添悦子・43歳・二段・主婦)

剣道は私の人生の目標、即ち生甲斐です。最初は何気なく、体力・気力・若さを保つために入門したのですが、若鮎のような少年剣士たちと、剣を交え心を交えているうちに、これこそ我が生きる目標だと思えるようになって来ました。

スモールステップでもいい、目標をもって生きることが大切です。四段めざして今年も頑張りたいと思っています。先生方、どうぞ御指導よろしくお願いたします。

(寺西ひとみ・53歳・三段・鳴門市撫養幼稚園)

美馬町に剣道教室が出来て、早三年になります。この間礼儀作法・挨拶を目的として練習に励まして来ました。他町村には体育館及び中学校に剣道部があり、当町には未だに出来ていません。剣道はいくら年を取っても、他には出来ないスポーツで有る事を、町の皆様に知って戴くと共に、町民の皆様に剣道を通して御理解を戴き、一日も早く実現できますよう努力して行きたいと思っています。

(香西虎夫・62歳・五段・無職)

子供達にまぎって竹刀をにぎり出した。若い先生について末籍に正座して静かにもくとうする社会人間、そして自分、あらゆる事を知り尽くした私の修養の目的、無から始めて物事にすなおに耐える心の修養を剣に求めようと、それから十年の歳月がすぎた此の頃では、みんなとただ楽しく稽古ができるようになった。それが私のめざす剣道だったかも知れない。

(糸谷文雄・62歳・四段・農業)

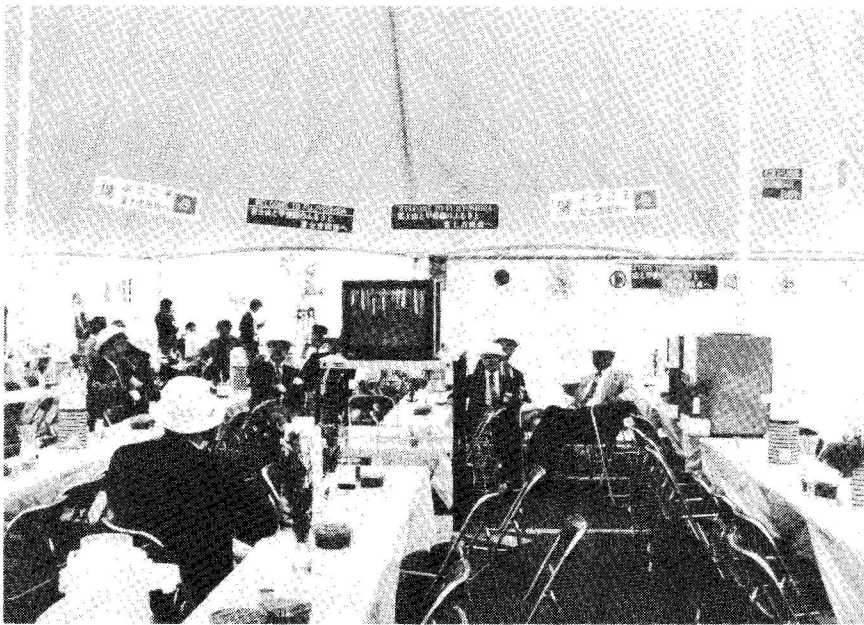
私の若い頃の剣道は、戦場での武技であり、武道でもありません。

人生すべて一対一の勝負で、所詮頼むは自力のみ、勝つか負けるか、間合・攻撃・防禦・千変万化の対応、集中した神経、そして礼儀に始まり礼儀に終わる。そのあとの清清しさ。世の雑音を離れて心身まさに爽快、これが今私達の処世の中に生かして目指す剣道ではなからうか。

(河内憲二・67歳・三段・農協参事)

剣道は優れた技を創造すると共に、強く成る事はきわめて大切であるが、一方青少年を善行し、非行を防止し、礼節を尊び、心身を練磨し、くじけないより良き社会人をつくる剣道こそ大切であると思う。最近、青少年剣士が多くなりつつある事は願ってもない幸せであり、之が善導に期待し、また自分も進んで務めたい。

(佐藤藤太・68歳・五段・印章彫刻業)



山梨国体、剣道の試合生中継が見れる湯茶接待所

編集後記

「クイズ一〇〇人に聞きました」

というテレビ番組の中で、「成人式を迎えた一〇〇人の若者が今一番大切なものは何か」という問題が出た。答は、意外にも「友人」で、だれ一人として正解者はいなかった。これは、モノの時代から心の時代への移り変わりをはっきりと表わしている。

「郷土の剣豪紹介」や「人物紹介」のコーナーには、剣の心を学ばんと誠実に努力した方々、あるいは現在も努力を続けている方々のエピソードが数々語られている。

先人の偉業を認め、そこから学ぶ姿勢を、同行の剣人から学ぼうとする謙虚な心を私達は持ち続けていきたい。

「心ここにあらざれば、視れども見えず、聴けども聞けず」求める心がなければ、どんな良い「お手本」が身近にあっても自分自身をふくらませることはできない。心の時代を

迎えた今、私達は静かに自分自身の心のうちを見つめ直してみたい。

48国体まであと六年。選手強化の

計画を具体的に考えていけばいくほど難しい問題が山積みしている。最近の各種全国大会での戦いの跡を振り返ってみても十分なものではない。何かを変えていかなければいけない。そして、良い点は逆に残していかなければならない。変えることのできるものは変える勇気を、変えることのできないものはそれを受け容れる謙虚さを、そして、その両者を見分ける知恵を身につけたい。

最近の学校教育現場では、生徒の権利意識が強くなりすぎ、逆に義務感がうすれつつあり、権利と義務の程良いバランスが崩れてきているように思う。大人社会の影響であろうか。

他から受けた親切な働きかけをもっと感じとってほしい。逆に、他に施した親切をもっと忘れてほしい。〃か

けた情は水に流し、受けた恩は石に刻め〃先ず、我々大人が身をもって範を示していきたい事のように思う。

井植三洋電機社長が、松下電器に勤めていた時、松下幸之助氏から次のように教えられたそうです。「松下電器は何を作っていますか」と聞かれたら、「松下では商品も作っています。」と答えなさい。「商品も、とは？」と聞かれたら、「人を作っています。」と言いなさいと。先ず、いい人をつくるからいい商品が生まれ、いい人がいい商品を作るからよく売れるというわけです。

勝負偏重が叫ばれて久しい剣道界。自分の修練の成果を試合で試すことは、とても大切で価値あることではあるけれど、剣道の理念を置きざりにしてはいないか。剣道で学んだ事を社会生活の中で善用してこそ、初めて剣道家として認められる。

前の例で言えば、〃あの人は剣道ができる〃ではなくて、〃あの人は剣道もできる〃と言われるようにな

りたい。職場で、学校で、あるいは社会の中で、先ず人間として他から認められ信頼される。そういう剣道人を徳島県剣道連盟は一人でも多く育てていかなければならない。

最後に、本誌発刊に際して、ご多忙中にもかかわらず原稿の執筆等、ご協力いただいた方々に感謝の意を表します。ありがとうございました。

(石井 博)

発行所	徳島県剣道連盟	発刊日	昭和六十二年四月二十九日
編集	徳島県剣道連盟広報部	印刷所	グランド印刷